

自治医科大学看護学部年報(第21号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報(第17号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2022

目 次

○ 看護学部委員会等報告

1. 人事委員会	春山 早苗 ……	5
2. 教務委員会	小原 泉 ……	6
3. 学生委員会	大塚公一郎 ……	8
4. FD評価実施委員会	横山 由美 ……	10
5. 研究推進委員会	成田 伸 ……	11
6. 広報委員会	村上 礼子 ……	13
7. 編集委員会	上野 まり ……	15
8. 国家試験対策委員会	浜端 賢次 ……	16
9. 臨地実習指導研修委員会	塚本 友栄 ……	17
10. 入試実施委員会	永井 優子 ……	18

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

1. 研究科委員会	春山 早苗 ……	21
2. 研究科委員会幹事会	横山 由美 ……	23

○ 教育研究分野別報告

1. 看護基礎科学	大塚公一郎 ……	27
2. 基礎看護学	小原 泉 ……	30
3. 地域看護学	春山 早苗 ……	33
4. 精神看護学	永井 優子 ……	39
5. 母性看護学	成田 伸 ……	42
6. 小児看護学	横山 由美 ……	47
7. 成人看護学	村上 礼子 ……	49
8. 老年看護学	上野 まり ……	53
9. 総合科目担当	春山 早苗 ……	55

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学領域	横山 由美 ……	59
2. 母性看護学領域	成田 伸 ……	61
3. クリティカルケア看護学領域	佐藤 幹代 ……	62
4. 精神看護学領域	半澤 節子 ……	63

5. がん看護学領域	小原 泉 ……	64
地域看護管理学分野		
6. 老年看護管理学領域	上野 まり ……	65
7. 地域看護管理学領域	春山 早苗 ……	66
8. 診療看護技術管理学領域	村上 礼子 ……	67
共通科目	横山 由美 ……	69
博士後期課程		
1. 広域実践看護学分野	春山 早苗 ……	71

○ 研究業績録

1. 看護基礎科学 ……	75
2. 基礎看護学 ……	76
3. 地域看護学 ……	78
4. 精神看護学 ……	82
5. 母性看護学 ……	83
6. 小児看護学 ……	85
7. 成人看護学 ……	86
8. 老年看護学 ……	88
9. 総合科目 ……	89

○ 資料

1. 2022年度（令和4年度）看護学部学年暦……	93
2. 自治医科大学看護学部の概況 ……	94
3. 看護学部教職員名簿 ……	95
4. 2022年度（令和4年度）大学院看護学研究科学年暦……	96
5. 大学院看護学研究科の概況 ……	96
6. 大学院看護学研究科教職員名簿 ……	97
7. 編集後記 ……	98

看護学部委員会等報告

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
 (2)非常勤講師の選考に関する事項
 (3)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（4名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（学部長）
小原 泉	委員（教務委員長）
大塚 公一郎	委員（学生委員長）
横山 由美	委員（FD評価実施委員長）
永井 優子	委員（入試実施委員長）
村上 礼子	委員（広報委員長※）
被選考教員の領域の教授	委員

※学部長が必要と認めた者 2名以内

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2022年度の審議事項・その他

回	開催日	審議事項・その他
1	4月26日	・老年看護学教員（助教1名）候補者選考 ・2022年度非常勤講師（疫学，国際看護論）の任用
2	6月28日	・2022年度非常勤講師（気象学）の任用
3	9月20日	・2022年度非常勤講師（臨床薬理学）の任用
4	10月25日	・欠員（基礎看護学，老年看護学，地域看護学，成人看護学）に係る選考作業部会の設置
5	11月22日	・学内教員の昇任申請に係る選考作業部会の設置
6	12月20日	・学内教員の昇任候補者（成人看護学教授，精神看護学講師）の選考 ・基礎看護学教員（教授1名，講師1名，助教1名）候補者選考
7	1月5日	・基礎看護学教員（教授1名）候補者選考 ・欠員（基礎看護学）に伴う教員候補者選考作業部会の設置
8	1月24日	・老年看護学教員（講師または助教1名，並びに助教1名）候補者選考

		・地域看護学教員（助教2名）候補者選考 ・成人看護学教員（助教1名）候補者選考 ・看護学（総合科目）教員（准教授または講師1名）候補者選考 ・2023年度非常勤講師（経済学・小児実践看護学Ⅲ）の任用
9	2月21日	・基礎看護学教員（講師1名）候補者選考 ・2023年度非常勤講師（生涯発達看護学概論Ⅳ，老年実践看護学Ⅰ，老年実践看護学Ⅱ，老年実践看護学Ⅲ（新カリ），老年実践看護学Ⅲ（旧カリ）の任用 ・2023年度臨地教授等の称号付与
10	3月22日	・2023年度非常勤講師（国際看護論）の任用

教務委員会

委員長 小原 泉

1. 所管事項

- 1) 授業及び試験に関する事項
- 2) 単位及び課程の修了に関する事項
- 3) 学生の入学、退学、休学および卒業等に関する事項
- 4) 学生の修学指導に関する事項
- 5) 授業関係の予算に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会は10名の委員と2名のオブザーバーで構成され、その構成員と役割を表1に、下部組織の構成員を表2に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役 割
小原 泉 教授	委員長、授業関係予算担当（主）
村上 礼子 教授	副委員長、実習調整担当（主）
上野 まり 教授	委員、共通物品管理担当（主）
大塚 公一郎 教授	委員、既修得単位認定担当（主）
里光 やよい 教授	委員、既修得単位認定担当、夏季へき地研修担当
塚本 友栄 教授	委員、時間割担当（主）
成田 伸 教授	委員、実習教育調整担当、助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当（主）
永井 優子 教授	委員
半澤 節子 教授	委員、夏季へき地研修担当（主）
横山 由美 教授	委員、カリキュラム運用担当
川野 亜津子 教授	オブザーバー、助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当、カリキュラム運用担当
浜端 賢次 教授	オブザーバー、実習教育調整担当

表2 下部組織

担当者氏名	役 割
平尾 温司 准教授	時間割担当
田村 敦子 准教授	夏季へき地研修担当
青木さざり 講師	
市川 定子 講師	
古島 幸江 講師	
飯島 早絵 助教	共通物品管理担当
井上 育子 助教	
遠藤 香奈 助教	
酒井 千裕 助教	
高崎 浩子 助教	
舟橋 千尋 助教	
前田 彩乃 助教	

内堀 真弓 准教授	カリキュラム運用担当
川上 勝 准教授	
倉科 智行 准教授	
島田 裕子 准教授	
長谷川直人 准教授	
古島 幸江 講師	メディカルシミュレーション担当
鈴木美津枝 講師	
甲賀 優貴 助教	
関山 友子 講師	WEB履修オリエンテーションWG
江角 伸吾 講師	
鈴木美津枝 講師	
舟橋 千尋 助教	

3. 活動内容

本年度は、11回の委員会を開催した。表3に審議事項を示した。

授業及び試験に関しては、コロナ禍であっても講義、演習および臨地実習が安全かつ学習の質を確保して実施できるよう対策を検討し、環境整備を行った。多くの教員がセミナー方式で担当する総合科目については、企画検討および評価を行い、課題の共有・改善策の周知を図った。

単位及び課程の修了に関しては、学則および履修規程に基づいて対応し、単位取得および卒業認定を審議した。

学生の入学、退学、休学および卒業等に関しては、学則および既修得単位認定規定に基づいて審議した。

学生の修学指導に関しては、授業（実習を含む）における感染対策の遵守や選択科目の履修促進を行った。

授業関係予算に関しては、機器備品、消耗品、教室整備について、出された希望の必要性・優先度を検討し、次年度の予算要望に反映した。

表3 審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年 4月14日	1. 教務委員会年間計画案 2. 助産師国家試験受験資格関連科目の受講学生の選考審査日程 3. 下部組織年間計画案 4. Moodleの運用方法および各授業におけるAV機器の準備等 5. 全体で協力する教務のマンパワー確保方法
2	5月14日	1. 前学期履修状況 2. 下部組織年間計画案 3. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考審査出題の基準

3	6月9日	1. 令和5（2023）年度および令和6（2024）年度以降の教育機器備品購入計画案 2. 令和5（2023）年度授業関係消耗品予算案 3. 令和5（2023）年度教室整備予算案 4. 下部組織年間計画 5. 研究セミナー運営案 6. 附属病院における感染対策の訂正 7. 全体で協力するマンパワーの確保方法
4	7月14日	1. 学生の休学 2. 令和5（2023）年度および令和6（2024）年度以降の教育用機器備品計画案 3. 令和5（2023）年度教室整備予算案 4. 令和4（2022）年度研究セミナー案 5. 令和5（2023）年度年間実習科目配置案 6. 選択科目の履修促進 7. 看護実習における事故対応マニュアル修正案 8. ループリック導入に関する検討
5	9月8日	1. 学生の退学 2. 令和5（2023）年度学年暦案 3. 履修調べ 4. 令和5（2023）年度時間割モデル 5. 令和5（2023）年度科目等履修生開講科目授業・募集定員案 6. 3Pに基づく教育活動の評価に用いる項目、方法、頻度等の検討 7. DPと到達目標の整合性
6	10月13日	1. 学生の休学 2. 看護基礎セミナーの評価と令和5（2023）年度計画 3. ループリック導入の検討 4. メディア授業に関する課題 5. 令和5（2023）年度時間割モデル修正案 6. 成績評価アンケート
7	11月10日	1. 「文献講読セミナー」の評価と令和5（2023）年度授業計画 2. 令和5（2023）年度時間割モデル案 3. マークシート導入 4. 新カリキュラム 精神保健看護実習の施設
8	12月8日	1. 令和5（2023）年度実習教育説明会の企画案 2. 令和5年度オリエンテーション日 3. 科目等履修生開講科目の見直し 4. 新カリキュラム研修会企画案 5. ポートフォリオ検討会
9	2023年1月12日	1. 「総合実習」「看護総合セミナー」の評価と令和5（2023）年度計画 2. 「研究セミナー」「看護トピックス」の評価と令和5（2023）年度計画 3. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考マニュアル 4. 国家試験対策委員会からの意見に基づく教育内容の検討

		5. ポートフォリオ・カンファレンス企画案 6. 新カリキュラム説明会 7. 共通部品購入 8. 学生便覧の記載内容の一部変更
10	2月9日	1. 4年次後学期単位取得と卒業認定 2. 既修得単位認定 3. 看護トピックスの評価と令和5（2023）年度計画 4. ポートフォリオ面接企画案 5. 共通物品の管理方法
11	3月9日	1. 学生の復学・休学・退学 2. 学生の単位取得状況 3. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生の決定 4. 共通物品の管理方法 5. 既製のオンライン教材購入希望調査結果 6. 多職種連携論議の履修条件 7. 学生の単位取得状況（卒業時の余剰単位取得状況を含む）に対する教員意見収集案 8. 看護学部生の学生生活に関するアンケート調査案

学生委員会

委員長 大塚 公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
大塚公一郎 教授	委員長 学友会担当
上野まり 教授	副委員長 奨学生選考担当
半澤節子 教授	女子学生寮運営担当
内堀真弓 准教授	キャリア支援担当
島田裕子 准教授	キャリア支援担当
角川志穂 准教授	女子学生寮運営担当
市川定子 講師	キャリア支援担当
佐々木彩加 講師	奨学生選考担当
鹿野浩子 講師	奨学生選考担当 女子学生寮運営担当

表2 下部組織

氏 名	役 割
高崎浩子 助教	キャリア支援担当
館沼麗奈 助教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、令和4年度は、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

今年度は、前年度7月より配置した3名の委員を

女子学生寮運営担当として、寮管理人や看護学務課などとも連携して女子学生寮で生じる問題の予防・改善やCOVID-19感染対策の強化に努めた。

学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。さらに、多額の貸与を受けている学生には、返還計画についての助言を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となって行った。附属病院による就職説明会とは別に、各学年ごとのキャリアガイダンスに加えて令和5年2月21日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として、卒業生をプレゼンターとして「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。

本委員会の管轄であるキャリア支援担当、奨学金担当、女子学生寮運営担当の委員が主として業

務にあたる活動においては、概ね、年間計画を不足なくはたすことができた。各担当において前年度に導入した新たな試みも確実な定着をみた。

表3 令和4年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年4月7日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2022年5月12日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)奨学金採用状況 (3)学生役割分担 (4)キャリア支援関係
3	2022年6月3日	(1)学生支援機構奨学金申請 (2)キャリア支援関係 (3)女子学生寮防災訓練 (4)学生自治会役員関係
4	2022年7月7日	(1)各種奨学金申請 (2)女子学生寮防災訓練 (3)キャリア支援関係
5	2022年9月1日	(1)学生の懲戒 (2)キャリア支援関係 (3)校舎防災訓練計画 (4)奨学金関係
6	2022年10月6日	(1)キャリア支援関係 (2)奨学金申請 (3)校舎防災訓練計画 (4)高額奨学生の面接
7	2022年11月10日	(1)奨学金返還計画面接 (2)キャリア支援関係
8	2022年12月1日	(1)学長賞選考委員検討 (2)キャリア支援関係 (3)学部校舎防災訓練 (4)女子学生寮関係
9	2023年1月5日	(1)卒業式送辞担当学生選定 (2)「将来のキャリアを考える会」計画 (3)次年度キャリアガイダンス日程計画 (4)学部および学生支援機構奨学金説明会 (5)学生の懲戒
10	2023年2月3日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について (4)将来のキャリアを考える会計画
11	2023年3月2日	(1)看護学部駐車場許可 (2)令和5年度キャリア支援プログラム実施案 および将来のキャリアを考える会 (3)女子学生寮防災訓練の日程

FD評価実施委員会

委員長 横山 由美

1. 所管事項

学部の教育内容などの改善のための組織的な研修及び研究に関すること

2. 委員会の構成

本委員会は10名の委員と2名のオブザーバー，4名の事務局で構成され，その構成員と役割を表1に，下部組織の構成員を表2に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
横山 由美 教授	委員長
里光 やよい 教授	副委員長，報告書
川上 勝 准教授	第1回FD研究会「FDマップ」
長谷川 直人 准教授	第2回FD研究会「ループリック」
関山 友子 講師	学生による授業評価，第1回FD研究会「FDマップ」
市川 定子 講師	第2回FD研究会「ループリック」
鈴木 祐太郎 主事	事務局

3. 活動内容

本年度は，7回の委員会と2回の研究会を開催した。表2に審議事項を示した。

研究会は，第1回が8月25日，第2回が3月8日に開催した。研究会については報告書を参照。

学生による授業評価については報告書を参照。

表2 審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年 4月7日	1. 所轄事項について 2. 活動方針について 3. 役割分担 4. 年間スケジュール（案）について
2	5月20日	1. 第1回FD研究会「FDマップ」について 2. 報告書案について 3. 学生に対するFD評価票記入の周知について 4. FD関係書類の整理について 5. 第2回FD研究会で利用するループリックについて
3	6月17日	1. 第1回FD研究会「FDマップ」について 2. FD関係書類の整理について（Moodle掲載） 3. 第2回FD研究会「ループリック」について
4	11月10日	1. 第2回FD研究会「ループリック」について 2. 令和3年度前学期授業評価回収率について
5	12月12日	1. 第2回FD研究会「ループリック」について 2. 授業評価について
6	1月11日	1. 第2回FD研究会「ループリックについて」 2. 授業評価について
7	3月7日	1. 第2回FD研究会「ループリック」について 2. 報告書について

研究推進委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、①看護職等との共同研究費に関する事項、②研究活動評価に関する事項、③研究活動の充実・活性化に関する事項、である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
成田 伸 教授	委員長、看護学部共同研究費、看護研究支援の調整、間接経費応募とりまとめ、研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
浜端 賢次 教授	副委員長、看護学部共同研究費、研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
長谷川 直人 准教授	看護研究支援の調整、研究活動促進支援、間接経費応募とりまとめ
平尾 温司 准教授	研究活動促進支援
江角 伸吾* 講師	看護学部共同研究費、看護研究支援の調整
佐々木 彩加 講師	看護学部共同研究費

*2022年4月まで

3. 活動内容

令和4年度の活動は以下のとおり。

- 研究活動促進支援に向けての活動：令和4年度は大学院カリキュラム委員会および大学院FD評価実施委員会主催の研究会に共催することになった。委員会独自の研究活動促進支援については、令和4年度内から令和5年度に向けて計画を進めることとし令和5年度に文科研 基盤研究(C)の応募に繋がるようなワークショップを企画することになった。令和4年度の文科研の申請は応募6件、採択3件、厚労科研応募1件、採択1件、民間助成金応募2件、採択2件と高い採択率であった。
- 看護学部共同研究費：令和4年度は、通常より多い3回の募集を行った結果12件を採択、3月末に報告書が提出された。また、共同研究費から助成する、英文校正・翻訳費用の申請も1件あった。応募の働きかけを繰り返した結果、予算の執行率は89.5%であった。令和5年度分については、2月末を締め切りとし、新規4件、継続5件の計11件で、修正を依頼した結果、最終的に11件を承認した。

に11件を承認した。

3. 附属病院看護部（本院・さいたま）臨地看護職への看護研究の支援の調整：看護部の協力を得て働きかけた結果、継続5件、新規10件について支援者の調整を行い、研究指導が実施された。
4. 研究補助者の活用：教員向けに複数回周知し、11件の依頼があった。またパソコンの更新など研究補助者の作業環境整備を行った。
5. 間接経費応募：研究補助者雇用に向けて、令和5年度の間接経費に応募し、資金を確保した。

表2 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	令和4年 4月21日	1. 委員会開催日程・役割分担 2. 看護研究支援の調整 3. 令和3年度看護学部教員共同研究費報告書 4. 令和4年度看護学部教員共同研究費応募課題および追加募集 5. 令和4年度科学研究費助成事業の交付状況 6. 令和4年度競争的資金（間接経費）で雇用した研究補助者の業務運用方法 7. 若手および新任教員の研究活動促進支援
2	5月12日	1. 看護研究支援の調整 2. 看護学部教員共同研究費の運用 3. 令和4年度看護学部教員共同研究費追加募集 4. 令和4年度科学研究費助成事業の交付状況 5. 研究補助者の業務運用方法 6. 研究活動促進支援の企画案
3	6月17日	1. 共同研究費・英文校正・翻訳費用申請の追加募集結果 2. 共同研究費の将来検討（残額の使用含む） 3. 看護研究支援の調整 4. 研究活動促進支援の企画案 5. 研究補助者への学部内委員会からの依頼受付結果
4	9月15日	1. 共同研究費の将来検討 2. 研究活動促進支援の将来検討
5	11月10日	1. 研究活動促進支援の中間報告 2. 令和4年度 間接経費への応募 3. 研究補助員業務に係る中間報告 4. 令和5年度共同研究費の申請
6	12月15日	1. 看護学部共同研究費申請書作成要領の改正案の検討 2. 令和4年度看護学部共同研究費報告書及び令和5年度の申請書提出 3. 令和4年度研究補助者の業務依頼状況

		4. 研究活動促進支援に向けての活動
7	令和5年 3月16日	1. 令和5年度看護学部教員共同研究費応募 課題の承認 2. 令和5年度看護学部教員共同研究費応募 課題の追加募集 3. 令和5年度研究活動促進支援 4. 令和4年度研究推進委員会報告 5. 令和5年度研究補助者の業務依頼実績 報告

広報委員会

委員長 村上 礼子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、以下の通りである。

- 1) 広報誌、パンフレット等の作成及び発行に関する事項
- 2) ホームページの作成及び管理に関する事項
- 3) オープンキャンパスの実施に関する事項
- 4) その他、進学説明会や進路相談会、出張講義等、学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。なお、オープンキャンパスに関しては、委員全員で分担し取り組んだ。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
村上 礼子 教授	委員長
成田 伸 教授	副委員長
川上 勝 准教授	ホームページ担当 在校生ポスター担当
島田 裕子 准教授	下野市南河内第2中学校体験学習 担当 パンフレット担当
小西 克恵 講師	広報誌担当 学生広報委員担当
渡邊 賢次 講師	パンフレット担当 ホームページ担当 新入生対象アンケート担当

表2 下部組織

担当者氏名	
石井 容子 講師	オープンキャンパス担当
館沼 麗奈 助教	
二宮美由紀 助教	
沼野 莉奈 助教	

3. 活動内容と評価

本委員会は、今年度表3に示す通り8回の委員会を開催した。

本年度から、必要な感染予防対策を徹底しつつ、可能な限りコロナ禍前の広報活動に戻せるよう検討した。

大学のホームページの看護学部特設サイトの作成と合わせて、ホームページを活用した広報活動は継続した。5月の第1回オープンキャンパスは3年ぶりに開催となった。また、夏季の第2・3回オープンキャンパスも、感染対策として事前参加

申込制での人数制限と、在校生との交流は遠隔での交流方法を継続し、学部教員全員の協力のもと開催した。参加者の人数制限があることを考慮し、8月に校内見学ツアーのみの追加オープンキャンパス企画を計5日間開催し、さらに、3月の第4回オープンキャンパスは午前・午後の終日開催とした。4回と追加企画のオープンキャンパスの参加者数は900名程度であった。オープンキャンパスの参加者からのアンケート結果では、熱心な教員の対応や遠隔対応でも在校生の話が直接聞けたことに大変好評な回答を得た。

広報誌「ビタミンN」では、『withコロナ』キャッチコピーに、コロナ禍においての学生生活の様子や、コロナ禍でも工夫しながら行われている実習や大学行事、社会貢献などを紹介する記事を掲載し、コロナ禍における本学の教育的取り組みや学生支援の様子をタイムリーに紹介することができたと評価する。

パンフレット「Campus Guide」では、写真等の撮影ができにくい状況ではあったが、本学の紹介、学部の強み等を強調した構成となるよう工夫した。

進学説明会や進路相談会・出張講義は、感染対策を優先させつつ、参加可能な企画には看護学部教員や看護学務課の協力を得て、参加をした。

在校生の協力を得て、メッセージや写真を掲載した広報ポスターは、例年通り広報活動を強化すべき地域・偏差値である約20校を選定し、送付した。

表3 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2021年 4月14日	・年間運営方針、年間計画、役割分担 ・オープンキャンパスの企画検討 ・下野市南河内第2中学校企画検討 ・「Campus Guide 2022」の評価 ・進学説明会の企画検討
2	5月19日	・第1回オープンキャンパスの最終確認 ・「Campus Guide 2024」および広報ポスター作成計画 ・下野市南河内第2中学校体験学習企画検討 ・HP更新・特設サイトの検討
3	6月10日	・「Campus Guide 2024」の構成検討 ・第2・3回、追加企画のオープンキャンパス実施計画の調整 ・HP特設サイトの新検討 ・第1回オープンキャンパスの評価 ・進学説明会の評価

4	7月14日	・「Campus Guide 2024」の構成 ・第2・3回、追加企画のオープンキャンパス最終確認 ・2023年度予算案検討 ・ビタミンN第19号評価と第20号の企画・編集方針 ・HPの更新と特設サイトの検討
5	9月8日	・「Campus Guide 2024」の構成 ・令和5年度オープンキャンパスの検討 ・ビタミンN19号の構成 ・HPの更新と特設サイトの検討
6	11月17日	・第4回オープンキャンパスの企画検討 ・HP特設サイトの検討 ・令和5年度オープンキャンパスの企画検討 ・新入生アンケートの検討 ・ビタミンN第20号の企画スケジュール
7	12月8日	・「Campus Guide 2024」の構成 ・第4回オープンキャンパスの企画検討
8	2023年 3月9日	・第4回オープンキャンパスの最終確認 ・令和5年度オープンキャンパスポスターおよび広報ポスター企画検討 ・新入生アンケートの検討 ・「Campus Guide 2024」検討 ・令和5年度下野市南河内第2中学校体験学習企画検討 ・パンフレット作製業者の選定方法の検討

編集委員会

委員長 上野 まり

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、自治医科大学看護学部ジャーナル及び自治医科大学看護学部／自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項、その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1のとおりである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
上野 まり 教授	委員長 看護学ジャーナル担当
里光 やよい 教授	副委員長 年報の編集・刊行担当
角川 志穂 准教授	看護学ジャーナル担当
青木 さぎ里 講師	年報の編集・刊行担当
古島 幸江 講師	年報の編集・刊行担当
鹿野 浩子 講師	看護学ジャーナル担当

3. 活動内容

本年度は、表2の通り4回の委員会を開催し、看護学ジャーナル掲載論文の審査と2021年度年報（第20／16号）の編集内容などについて検討を行った。

自治医科大学看護学部年報（第20号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第16号）と合わせて刊行した。

自治医科大学看護学ジャーナルは（第20号）は、原著論文2編、資料2編、実践報告1編似て刊行した。投稿論文1編につき1名の編集委員を選定し、2名の査読者が論文内容の査読にあたった。投稿論文数が少ない実情から、教授総会、研究科委員会の場を借りて、修了生や教員からの積極的な投稿を依頼した。

なお、これまで委員長、副委員長が担当していた編集後記については、委員会の委員が持ち回りで担当した。

自治医科大学リポジトリへの登録については、ジャーナルに掲載した論文はすべて登録することになり、著者が任意で登録を辞退する場合の提出様式を決定した。

表2 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年 4月25日	・年度の活動方針、役割分担 ・看護学ジャーナル第20巻の編集 ・年報（第20／16号）の編集 ・自治医科大学リポジトリへの登録 ・編集後記執筆者について
2	2022年 8月1日 (臨時開催)	・看護学ジャーナル投稿希望者の資格の有無 ・看護学ジャーナルのリポジトリ登録
3	2022年 10月24日	・看護学ジャーナルの投稿論文の査読者・担当編集者の決定 ・リポジトリへの登録
4	2022年 2月15日	・ジャーナル投稿論文の採否と原稿種類の決定 ・年報の進捗確認 ・査読者の査読結果閲覧について ・年報のフォーマット改正 ・リポジトリ登録取り下げ申請について

国家試験対策委員会

委員長 浜端 賢次

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する在学生ならびに既卒生が国家試験に合格するように、国試対策、学習相談と支援、学習環境の整備等を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は、表1と表2に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
浜端 賢次 教授	委員長 成績分析・既卒生対応
半澤 節子 教授	副委員長 成績分析・既卒生対応
倉科 智行 准教授	模試運営
佐藤 幹代 准教授	国試対策ゼミ
青木 さぎ里 講師	成績分析
石井 容子 講師	卒業生アンケート

表2 下部組織（ワーキンググループ）

担当者氏名	役 割
関山 友子 講師	成績分析
小西 克恵 講師	国試対策ゼミ
酒井 千裕 助教	模試運営・卒業生アンケート
路川 達阿起 助教	模試運営・国試対策ゼミ
上野 知奈 助教	模試運営・卒業生アンケート

3. 活動内容

本年度は、表3に示す通り、7回の委員会を開催した。国家試験対策としては、毎年2名の委員が約20名程度の学生を担当し、3年次までのGPA成績結果等を踏まえて、年間計画や学習方法の指導などを行っている。加えて、模擬試験実施直後には学生による自己採点結果が報告され、懇切丁寧な個別面談が行われている。

模擬試験では【4年生（看護師4回・看護師必修1回・保健師3回・助産師2回）】、3年生と2年生には低学年模試を1回実施した。模擬試験問題の重要問題については、解説動画を閲覧できる業者を選定している。さらに、教員による国家試験対策ゼミでは、遠隔と録画を用いて、2022年9月から2023年1月にかけて開講した。学習環境の整備では、土曜日の教室開放、学生サロンに受験参考書や問題集、パンフレット（国家試験対策模擬試

験・国家試験対策講習等）を置き、学生が自由に閲覧できるようにした。

2022年度国家試験の結果（新卒）は、表4に示す通りである。本学の保健師・助産師・看護師合格率は、いずれも全国平均を上回っているが、引き続き100%合格を目指し教員間でサポートを継続したい。

表3 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年 4月12日	年間計画、役割分担、模試年間計画、国試対策ゼミの検討
2	2022年 6月16日	国試傾向・本学データ分析、模試監督マニュアル・模試監督調整、不合格者への対応確認
3	2022年 9月8日	官報、模試結果、国試ガイダンス（2・3年生）・受験手続説明会運営方法、カリキュラムへの意見交換
4	2022年 11月17日	模試結果、国試対策ゼミの運営報告、今後の国試関連事項の確認、学習支援状況と工夫
5	2023年 1月19日	模試結果、国試対策ゼミの運営報告、卒業生アンケートの検討、既卒生の受験対応
6	2023年 3月2日	国試受験状況の確認、国試講評（テコム看護）、今年度の振り返りと次年度に向けて
7	2023年 3月24日	国家試験合格発表・次年度確認

表4 2022年 保健師/助産師/看護師国試結果(新卒)

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) 本学(全国)
本 学	看護師	99	98	99.0 (95.5)
	保健師	98	96	98.0 (93.0)
	助産師	3	3	100.0 (95.9)

臨地実習指導研修委員会

委員長 塚本 友栄

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、以下4点である。

- 1) 臨地実習指導研修のプログラム検討に関する事項
- 2) 臨地実習指導研修会の開催に関する事項
- 3) 臨地実習指導研修修了者のフォローに関する事項
- 4) その他学部長が必要と認めた事項
(臨地教員対象の研修会)

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
塚本 友栄 教授	委員長
永井 優子 教授	副委員長
佐藤 幹代 准教授	臨地実習指導研修会担当
田村 敦子 准教授	臨地教員のための研修会担当
石井 容子 講師	臨地教員のための研修会担当
鈴木 美津枝 講師	臨地実習指導研修会担当

3. 活動内容と評価

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

2022年9月9日(金)に、臨地実習指導研修会を対面で開催した。受講者数は50名であり、アンケート(回収率100%)では、「カリキュラムの変化や学生の現状」「コロナ禍での実習の学生への影響」を知ることができた、GWにより「経験談を聞き非常に勉強になった」「自身を振り返るきっかけとなった」等、肯定的な回答が得られた。研修に満足したかの問いにそう思うと全員が回答し、研修会の目標は概ね達成された。

2023年2月24日(金)に、臨地教員のための研修会を対面で開催した。受講者数は41名であり、アンケート(回収率95.1%)では、令和4年度改正カリキュラムのねらい、コロナ禍による看護実践の変化に臨機応変に対応できる実践教育力・実践マネジメント力への理解を深めたかの問いにそう思うと全員が回答し、研修会の目標は概ね達成された。

表2 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月11日	・年間活動計画、役割分担 ・臨地実習指導研修会 方向性の検討 ・2021年度看護系大学教員向け課題解決型研修報告
2	5月18日	・年間活動計画の修正 ・臨地実習指導研修会 講師、および時間配分の検討
3	6月9日	・臨地実習指導研修会 グループワーク等の検討
4	7月15日	・臨地実習指導研修会 アンケート等の検討 ・臨地教員のための研修会 企画趣旨の検討
5	9月1日	・臨地実習指導研修会 当日運営等の検討 ・臨地教員のための研修会 企画趣旨、講師選定方針検討
6	10月6日	・臨地実習指導研修会 実施評価 ・臨地教員のための研修会 プログラム等の検討
臨時	10月14日 (メール審議)	・臨地教員のための研修会 プログラム等の検討
臨時	11月11日 (対面審議)	・臨地教員のための研修会 アンケート、参加申込方法検討
7	2023年 2月13日	・臨地教員のための研修会 当日運営等の検討
8	3月9日	・臨地教員のための研修会 実施評価 ・活動評価、次年度活動計画

入試実施委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、次のとおりである。

1) 入学試験実施に関する事項

(1) 入学試験実施日の役割分担・実施手順に関すること。

(2) 入学試験実施説明会に関すること。

2) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
永井 優子 教授	委員長
川野 亜津子 教授	副委員長
倉科 智行 准教授	委員
平尾 温司 准教授	委員
古島 幸江 講師	委員
江角 伸吾 講師（令和4年4月まで）	委員
大根田 雅則 課長	事務局
野澤 幸男 参事	事務局
湯浅 芳恵 主幹	事務局

3. 活動内容

本年度も4回の委員会を開催した。各回の審議事項を表2に示した。

第1回委員会では、構成員および所管事項、入学試験関係の日程を確認し、学生募集要項の受験生への説明内容を修正し、昨年度に引き続き、入学試験マニュアルの追加項目の作成およびCOVID-19対応による随時変更の可能性について了承された。

第2回委員会では、18歳成人の民法改正施行を踏まえた修正も含めて令和5年度推薦入学試験実施マニュアルを検討した。修正版マニュアルを用いて令和4年11月10日（木）に入試実施説明会を開催し、学校推薦型選抜入学試験を11月19日（土）に実施した。追試験は実施しなかった。

第3回の委員会では、一般選抜型入学試験の入試実施マニュアルを確認し、COVID-19感染症対策として別室1室を設定した。学校推薦型選抜入学試験と同様に修正版を作成した。2023年1月16日（月）に作成したマニュアルを用いて一般入学試験実施説明会を開催した。一般入学試験（一次試験）を1月21日（土）に、一般入学試験（二次試験）

を2月4日（土）に実施した。いずれの追試験も対象者がなく、実施しなかった。

第4回の委員会では、令和5年度入学試験の評価を行い、次年度は感染症法上COVID-19感染症の5類変更を前提に、高等学校新学習指導要領の実施状況と、修正を要する部分を確認して検討事項を整理した。また、令和6年度入学試験実施マニュアルについて、当日変更部分を含めて検討し、文部科学省の令和6年度大学入学者選抜実施要項（通知）に基づいて、追試験、感染対策、実施時間等を検討することとし、マニュアル全体の修正方針を決定した。

表2 令和4年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2022年 4月21日	1. 本委員会の構成について 2. 本委員会の所管事項について 3. 令和5年度看護学部入学試験関係の日程について 4. 学生募集要項について 5. 令和5年度入学試験実施マニュアルについて
2	10月27日	1. 令和5年度推薦入学試験実施マニュアルについて 2. 推薦入学試験実施説明会の日程変更について
3	12月22日	1. 令和5年度一般入学試験実施マニュアルについて 2. 一般入学試験実施説明会の実施について
4	2023年 3月9日	1. 令和5年度看護学部入学試験の評価について 2. 令和6年度入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（研究科長）
横山 由美	委 員（幹事長）
上野 まり	委 員
大塚 公一郎	委 員
川野 亜津子	委 員
小原 泉	委 員
里光 やよい	委 員
塚本 友栄	委 員
永井 優子	委 員 ※
成田 伸	委 員 ※※
浜端 賢次	委 員
半澤 節子	委 員
村上 礼子	委 員 ※※※

※広域実践看護学分野主任兼ねる

※※実践看護学分野主任兼ねる

※※※地域看護管理学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2022年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月14日	・学生の休学 ・2022年度入学生の研究指導教員の決定 ・2022年度履修科目（博士前期・後期課程）の決定 ・2022年度TAの決定 ・長期履修許可（博士前期課程・博士後期課程）

		・博士前期課程・博士後期課程の教員資格基準
2	6月2日	・2023年度博士前期課程入学試験実施マニュアル ・2023年度出願資格認定審査実施マニュアル ・2023年度博士前期課程科目等履修生開講科目 ・既修得単位の認定 ・2022年度博士後期課程研究費 ・2024パンフレット ・カリキュラムの見直しの方針
3	6月16日	・2023年度出願資格認定審査可否判定
4	7月7日	・2022年度博士後期課程論文審査（口頭試問） ・2022年度博士後期課程学位論文発表会（最終試験） ・特別講義 ・2024年度入学試験日程 ・博士後期課程研究費の取り決め
5	7月21日	・2023年度博士前期課程入学試験可否判定
6	8月25日	・2022年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の判定 ・2022年度科目等履修生（追加募集）の決定 ・2023年度予算要求
7	10月6日	・目的及びミッションの見直し ・2022年度科目等履修生単位修得（前期課程・後期課程）認定 ・2022年度第3回合同研究セミナー ・実践看護学領域の新カリキュラム構成案 ・2022年度FD研究会 ・研究計画審査会
8	12月1日	・ミッション（使命） ・2022年度教員の任用 ・2022年度博士後期課程科目等履修生単位修得認定 ・2023年度博士課程説明会（10月開催分）日程調整 ・2024年度学生募集要項
9	12月19日	・2022年度博士前期課程論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）
10	1月6日	・出願資格認定審査の結果
11	2月1日	・2022年度博士前期・後期課程論文審査（口頭試問）の判定 ・2023年度科目等履修生（博士前期課程）の決定 ・2023年度教員の任用及び担当授業科目の追加申請 ・2023年度非常勤講師の任用 ・2023年度学年歴 ・2023年度委員会議事内容について
12	2月20日	・2022年度博士（看護学）及び修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定 ・2023年度博士後期課程及び博士前期課程（第Ⅱ期募集）入学試験の可否判定 ・2022年度自己点検・評価

13	3月6日	・ 学生の退学 ・ 学生の休学 ・ 2022年度博士前期・後期課程修得単位の認定 ・ 2022年度博士前期・後期課程修了判定 ・ 2022年度科目等履修生の単位修得（後期履修） ・ 2023年度委員会議事内容 ・ 2023年度教員の任用及び担当授業科目 ・ 2022. 2023年度非常勤講師の任用 ・ 2023年度時間割 ・ 2023年度新入生・在学生オリエンテーション ・ 2023年度科目等履修生（博士後期課程）決定 ・ 2023年度TAの決定 ・ 2023年度研究生の受入 ・ 学位審査の適切性の評価
----	------	---

研究科委員会幹事会

幹事長 横山 由美

1. 所管事項

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他、大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏名	役割
春山 早苗 教授	研究科長，研究計画支援委員長
横山 由美 教授	幹事長
半澤 節子 教授	実践看護学分野主任教授，入試実施委員長
村上 礼子 教授	地域看護管理学分野主任教授
永井 優子 教授	広域実践看護学分野主任教授
塚本 友栄 教授	広報委員長
里光 やよい 教授	FD評価実施委員長

3. 活動内容

令和4年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。令和4年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう、幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し、必要な検討事項について各委員会において審議を行い、幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ、審議した。

表2 令和4年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	令和4年4月21日	1. 既修得単位の認定 2. 令和4年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生の後期開講科目一覧（追加募集） 3. 令和4年度看護学研究科博士後期課程研究費 4. 令和4年度第1回看護学研究科博士課程説明会 5. 大学院看護学研究科パンフレット及びホームページ
2	5月24日	1. 令和5年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアル

		2. 令和5年度看護学研究科出願資格認定審査実施マニュアル 3. 令和5年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生開講科目 4. 令和4年度大学院特別講義・課外授業 5. 看護学研究科のカリキュラムの見直し 6. 自治医大シンポジウム 7. 看護学研究科博士課程説明会動画コンテンツ 8. 看護学研究科パンフレット及びホームページ
3	6月28日	1. 看護学研究科特別講義 2. 大学院説明会動画コンテンツ更新 3. 令和6年度看護学研究科入学試験日程
4	7月19日	1. 大学院入試説明会動画の更新時期及び8月オンライン説明会 2. 大学院FD研究会企画案 3. 令和5年度大学院看護学研究科予算要求
5	9月20日	1. 看護学研究科の「教育研究上の目的」及び「ミッション」案の修正アドミッションポリシー 2. 実践看護学領域の新カリキュラム構成案 3. 令和4年度大学院看護学研究科FD研究会 4. 大学院説明会動画コンテンツ
6	10月25日	1. 学則改正 2. 大学院看護学研究科博士課程説明会 3. リサーチ・アシスタント（RA）とティーチング・アシスタント（TA）の時給単価改定
7	11月22日	1. 令和5年度大学院看護学研究科博士前期課程（第Ⅱ期募集）及び博士後期課程入学試験実施マニュアル 2. 令和6年度大学院看護学研究科看護学専攻学生募集要項 3. 看護学研究科博士後期課程教員任用審査 4. 令和5年度大学院看護学研究科博士後期課程説明会日程（10月開催分）調整
8	12月20日	1. 令和5年度看護学研究科学年暦 2. 令和5年度看護学研究科研究計画審査会（博士後期課程）日程 3. 令和5年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程 4. 令和5年度看護学研究科博士前期課程・後期課程時間割 5. 令和5年度大学院要綱 6. 令和5年度看護学研究科博士前期課程第Ⅱ期募集及び博士後期課程入学試験実施マニュアル 7. 令和5年度説明会当日プログラムおよびチラシ案
9	令和5年1月24日	1. 看護学研究科教員の任用 2. 看護学研究科非常勤講師任用
10	2月21日	1. 学生の退学 2. 令和5年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーション 3. 令和5年度看護学研究科ティーチングア

		シスタント（在学生）の決定 4. 看護学研究科非常勤講師の任用 5. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目申請 6. 令和4年度大学院看護学研究科FD研究会実施後アンケート 7. 令和5年度メディア授業推進に係る方針及び令和5年度計画について 8. 令和5年度看護学研究科時間割 9. 令和4年度自己点検・評価
11	3月22日	1. 学生の休学 2. 令和4年度幹事会審議事項 3. 博士後期課程研究費 4. 看護学研究科博士前期課程・後期課程の教員資格基準

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 大塚 公一郎

1. スタッフの紹介

教授 大塚 公一郎

准教授 倉科 智行

准教授 平尾 温司

講師 関山 友子

講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学学に関する教育概要

(1)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(2)人間関係論（1, 2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間を担当して授業を、渡辺純一非常勤講師が10時間を担当して講義・演習を行った。

(3)病態学概論（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が15時間を担当して講義を行った。

(4)病態学各論Ⅰ（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が15時間を担当して講義を行った。

(5)病態学各論Ⅱ（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義を行った。

(6)臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が7時間、鯉渕晴美非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間、木島茂喜非常勤講師（本学医学部講師）が2時間、篠原弘巳非常勤講師（本学RIセンターRI管理室）が2時間を担当して講義を行った。

(7)人体科学の基礎（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である倉科が15時間を担当し講義を行った。

(8)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が30時間を担当して講義を行った。

(9)人体の構造と機能Ⅱ（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が32時間を担当して講義および実習を行った。

(10)免疫学（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である平尾が15時間を担当して講

義を行った。

(11)医療とバイオテクノロジー（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

(12)情報学（1年次後学期2単位：選択）

科目分担者である浅田義和（本学医学教育センター准教授）が10時間、科目責任者である関山が20時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(13)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義を行った。

(14)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(15)疫学（4年次前学期2単位：必修）

科目分担者である江角伸吾（地域看護学講師）が4時間、科目責任者である関山が26時間を担当して講義を行った。

(16)保健医療福祉システム論（1年次後学期2単位：必修）

科目分担者である春山早苗（地域看護学教授）が6時間、塚本友栄（地域看護学教授）、青木さざり（地域看護学講師）が各4時間、上野まり（老年看護学教授）、島田裕子（地域看護学准教授）、江角伸吾（地域看護学講師）、舟橋千尋（地域看護学助教）が2時間、科目責任者である関山が8時間を担当して講義を行った。

(17)基礎英語（1年次前学期1単位：必須）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(18)医療英語コミュニケーション（1年次後学期1単位：必須）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(19)医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(20)社会言語学（1年次後学期1単位：選択）

科目責任者である鹿野が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位必修）

- 倉科，平尾は各22時間の演習を担当した。
- (2)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）
大塚，倉科，関山，鹿野は，6時間の実習を担当した。
- (3)保健医療福祉システム論（1年次後学期2単位：必修）
科目分担者である春山早苗（地域看護学教授）が6時間，島田裕子（地域看護学講師），青木さぎ里（地域看護学講師）が各4時間，上野まり（老年看護学教授），塚本友栄（地域看護学教授），江角伸吾（地域看護学講師），土谷ひろ（地域看護学助教）が2時間，科目責任者である関山が6時間を担当して講義を行った。
- (4)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
関山，鹿野は，各10時間の演習を担当した。
- (5)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）
大塚，関山，倉科，各6時間，平尾は4時間，鹿野は4時間の実習を担当した。
- (6)看護トピックス（4年次後学期2単位：必修）
平尾は宇都宮大学農学部附属農場で12時間の実習を担当した。
- (7)看護総合実習（4年次前学期2単位：必修）
関山は，90時間の実習を地域看護学の教員と担当した。
- (8)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）
関山は，120時間のセミナーを地域看護学の教員と担当した。大塚は，18時間のセミナーを精神看護学の教員と，倉科は12時間のセミナーを成人看護学の教員と，平尾は16時間のセミナーを老年看護学の教員と，鹿野は各16時間のセミナーを担当した。
- (9)大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。
- (10)大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。
- (11)倉科は，本学医学部3年生を対象に，6時間の内分泌代謝学の系統講義を行った。
- (12)倉科は，本学医学部6年生を対象に，2時間の糖尿病学の内科学総括講義を行った。
- (13)倉科は，本学医学部4年生を対象に，内分泌代謝科実習クルズス「糖尿病」の講義を計24時間行った。
- (14)平尾は本学医学部1年生を対象に136時間の解剖学実習を担当した。

- (15)平尾は本学医学部2年生を対象に16時間の神経解剖学実習を担当した。

3. 研究活動の概要

- 1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合
- (1)関山は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「特定行為を実践する看護師に対する意思決定支援トレーニングプログラムの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員春山，村上，川上，宮城大学江角伸吾であった。
- (2)平尾は，中山隼雄科学技術文化財団研究助成金による研究課題「ウシのヴァーチャルリアリティ動画はヒトを癒せるか？」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員角川，鹿野，連携研究者は宇都宮大学農学部附属農場 長尾慶和であった
- 2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合
- (1)鹿野は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「医療場面の質問—応答において構築される共感に関する認知語用論的研究」（研究代表者：後藤リサ）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した
- (2)鹿野は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「Loss of controlにあるALSの人々に「応答する看護」がもたらす影響」（研究代表者：渡邊賢治）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

- 1) 論文の査読
- (1)大塚は，多文化間精神医学学会誌「こころと文化」の編集委員長として，投稿論文3本の査読を行った。
- (2)平尾は，Animal Science Journalの査読員を務め，投稿論文の査読を行った。
- 2) 学会発表抄録の査読
- (1)大塚は，第28回多文化間精神医学会学術総会のプログラム委員を務め，学会発表抄録の査読を行った。
- 3) 学会のシンポジウムなどの座長
- (1)大塚は，第29回多文化間精神医学会学術総会に

において、一般演題の座長を務めた。

- (2)鹿野は、第14回文化看護学会学術集会において、ワークショップ「医療コミュニケーション分析への新しい視点 - 解釈理論を用いた言語学的アプローチ」を企画し、座長を務めた。

4) 非常勤講師，研修会等講師

- (1)平尾は、栃木県立今市高等学校の模擬授業を担当した。

- (2)鹿野は、第23回日本救急看護学会学術集会の交流集会において、「わかる！できる！ - 国際学会発表のポイントとコツ」について講師を務めた。

- (3)鹿野は、平成3年度、4月より日本女子大学英文学科基礎教育科目で60時間のActive Readingの講義を行った。

- (4)倉科は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で6時間の病態生理学Ⅱ（内分泌代謝学）の講義を行った。

5) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)大塚は、令和1年4月より多文化間精神医学会理事、同年4月より同学会誌「こころと文化」編集委員長を務めている。

- (2)大塚は、平成22年10月より日本精神病理学会評議員を務めている。

- (3)大塚は、平成26年10月より日本精神医学史学会評議員を務めている。

- (4)大塚は、日本ルーラルナース学会学会誌「ルーラルナース」の査読委員を務めた。

- (5)鹿野は、平成3年度4月より文化看護学会学術集会企画委員を務めている。

- (6)関山は、平成22年4月より日本ルーラルナース学会編集委員を務めている。

- (7)倉科は、令和2年4月より日本内分泌学会評議員を務めている。

6) その他

- (1)関山は、感染症対策専門家派遣事業による専門家の派遣において、現地活動（2022年9月10日および17日）、県南保健所で行った。

基礎看護学

教授 小原 泉

1. スタッフの紹介

教授 小原 泉

教授 里光 やよい（2023年3月31日退職）

准教授 内堀 真弓

講師 湯山 美杉（2023年3月31日退職）

講師 石井 容子

助教 井上 育子

助教 甲賀 優貴（2023年3月31日退職）

2. 教育の概要

基礎看護学では、看護学の基礎となる知識ならびに基礎的な看護技術を学生が習得することを目標に、教育活動を展開している。

1) 基礎看護学に関する教育概要

- (1)看護学概論（1年次前学期1単位：必修）：小原が15時間担当
- (2)実践基礎看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）：小原が15時間担当
- (3)看護技術論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）：里光が13時間（うち6時間は湯山が補助）、石井が2時間（湯山が補助）担当
- (4)看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）：基礎看護学全教員で30時間担当
- (5)看護技術論Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）：里光が2時間、内堀が9時間、湯山が4時間担当
- (6)看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）：基礎看護学全教員で30時間担当
- (7)ヘルスアセスメント（1年次後学期1単位：必修）：基礎看護学全教員で30時間担当
- (8)看護技術論Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）：小原が6時間、里光が2時間、内堀が7時間（うち2時間は湯山が補助）担当
- (9)看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）：基礎看護学全教員全員で30時間担当
- (10)看護過程演習（2年次前学期1単位：必修）：小原が30時間、基礎看護学全教員で28時間担当。
- (11)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）：基礎看護学全教員ならびに看護基礎科学全教員で45時間を担当
- (12)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必修）：基礎看護学全教員で90時間を担当

2) 基礎看護学以外の担当教育概要

- (1)看護倫理学（4年次前学期2単位：必修）：小原が26時間担当
- (2)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）：里光、内堀、井上、甲賀がグループ担当教員として22時間を担当
- (3)文献購読セミナー（2年次前学期1単位：必修）：湯山、石井がグループ担当教員として16時間を担当
- (4)看護総合セミナー（4年次通年120単位：必修）：基礎看護学全教員で120時間担当
- (5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）：基礎看護学全教員で90時間担当
- (6)がん看護学（2・4年次後学期1単位：選択）：石井が3時間、小原が2時間担当

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

- (1)小原は、文部科学省化学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究課題「がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発と実践知の可視化」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、東京大学医科学研究所 藤原紀子、埼玉医科大学国際医療センター 玉木秀子、東京大学 山本則子、東京保健医療大学 山花令子、千葉大学大学院 野崎章子、広島大学 吉村健一であった。
- (2)小原は、文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「治験・臨床研究に関わる看護師の道徳的苦悩」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、本学部教員 内堀、東京大学医科学研究所 藤原紀子、千葉大学大学院 野崎章子、東北大学 田代志門であった。
- (3)内堀は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「フットケア看護力で支える糖尿病患者のセルフモニタリングに関する研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は倉科、東京医科歯科大学 山崎智子、国際医療福祉大学 浅野美知恵、東京医科大学 本田彰子であった。
- (4)内堀は、自治医科大学看護学教員共同研究費による研究課題「糖尿病を有するがん患者が病とともに生きることを支える看護支援プログラム

の開発に向けた基礎的研究～糖尿病を有するがん患者の病との向き合い方に関する文献検討：スコーピングレビュー～」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、小原、里光、湯山、石井、井上、甲賀、自治医科大学附属病院 福田順子、新井茉美、飯塚由美子、岩永麻衣子、小林玲子であった。

- (5)石井は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2020年度一般公募「在宅医療研究への助成」による研究課題「在宅におけるIPOSの利用の実現可能性と非がん患者へのIPOSの信頼性・妥当性の検証」の研究代表者として参加し、同研究を遂行し2022年3月に調査を終了し、その後、優美記念財団に研究報告書を提出した。
- (6)井上は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「臨地実習による看護学生のコミュニケーションスキルと共感性の変化」の研究代表者として同研究を実施した。研究分担者は、小原、里光、内堀、湯山、石井、甲賀、附属病院看護部 福田順子、弘田智香であった。
- (7)湯山は、旭硝子財団研究助成建築・都市分野・発展研究コースによる研究課題「レセプトデータ解析による健康課題を有する高齢者の安定した地域生活継続性を実現する地域デザインの考察」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、宇都宮大学 佐藤栄治、香川大学 鈴木達也、宇都宮大学 野原康弘であった。
- (8)甲賀は、看護学部共同研究費による研究課題「急性冠症候群発症時の患者の受療行動に関する研究」の研究代表者として同研究を実施した。研究分担者は、小原、里光、内堀、湯山、石井、井上、附属病院看護部 神山淳子、高瀬裕美であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

- (1)小原は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育プログラム」（研究代表者：千葉大学大学院 野崎章子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- (2)小原は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「包摂的パンデミック・

レジリエンス構築を志向する精神障害者の地域生活継続支援法開発」（研究代表者：千葉大学大学院 野崎章子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- (3)内堀は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「地域で共にグリーフを癒すサポートモデルの開発」（研究代表者：東京医科歯科大学 山崎智子）に、研究分担者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

- (1)石井は、自治医科大学附属病院5A病棟の看護師を対象に研究課題「術前化学療法を行う食道がん患者の術前リハビリテーションによる骨格筋量の増域が縫合不全に及ぼす影響」について、研究指導を行った。

2) 論文の査読

- (1)小原は、日本がん看護学会誌の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (2)小原は、千葉看護学会学会誌の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (3)内堀は、日本在宅看護学会「日本在宅看護学会誌」の編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (4)石井は、日本緩和医療学会誌「Palliative Care Research」編集委員会の査読委員を務め、論文投稿の査読を行った。

- (5)石井は、BMJ supportive & Palliative Careから査読依頼を受け、論文投稿の査読を行った。

- (6)湯山は、「自治医科大学看護学ジャーナル」の査読者を務め、投稿論文の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

- (1)小原は、第37回日本がん看護学会学術集会の演題査読委員を務め、学会発表抄録3本の査読を行った。

- (2)小原は、第42日本看護科学学会学術集会の査読委員を務め、一般演題3本の査読を行った。

4) 非常勤講師、研修会等講師

- (1)小原は、石川県立看護大学大学院（継続・緩和ケア展開論）において、「生命に関わる健康問題に関する患者や家族の意思決定と看護援助」について講師を務めた。

- (2)小原は、国立がん研究センター東病院 がん化学

療法看護教育課程において、「がん化学療法薬の開発」および「臨床試験と治験コーディネーター」について非常勤講師を務めた。

- (3)小原は、自治医科大学看護学部令和4年度臨地実習研修会において、「令和4年度看護学部カリキュラム改正および臨地実習の概要」について講師を務めた。

5) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)小原は、日本がん看護学会代議員を務めた。
- (2)小原は、日本がん看護学会特別関心活動グループ委員を務めた。
- (3)小原は、日本がん看護学会誌査読委員を務めた。
- (4)小原は、日本看護科学会誌和文誌査読委員を務めた。
- (5)小原は、千葉看護学会誌査読委員を務めた。
- (6)小原は、一般社団法人婦人科がんコンソーシアム（GOTIC）リサーチナース委員会委員長を務めた。
- (7)小原は、日本臨床腫瘍研究グループ 臨床研究専門職委員を務めた。
- (8)小原は、日本臨床腫瘍研究グループ 利益相反委員を務めた。
- (9)石井は、第27回在宅ケアネットワーク栃木（自治医科大学地域医療研究センター開催）の主催者側のボランティアとして活動した。

6) その他

- (1)内堀は、東京医科歯科大学同窓会副会長として、同窓会の運営及びお茶の水会看護同窓会講演会の企画運営を務めた。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

准教授 島田 裕子

講師 市川 定子（2022年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学大学院看護学研究科修了

職歴：岩井（現：坂東）市（保健師），
茨城県（技師，主任，係長，主査），
常磐大学看護学部看護学科（講師）

講師 青木さぎ里

講師 江角 伸吾（2022年4月30日退職）

助教 舟橋 千尋（2023年1月31日退職）

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山，塚本，島田，市川，青木が担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：塚本，島田，市川，江角，舟橋が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：市川，青木，江角が担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：青木が担当。⑤「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が担当。⑥老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。

⑦「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑧「総合実習」（4年次後学期：必修）：春山が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で17名を担当。実習場所には下野市健康増進課及び高齢福祉課7名，群馬県吾妻郡中之条町六合地区4名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション2名。⑨「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：塚本が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で学生17名を担当。春山・舟橋2名，塚本3名，島田4名，市川3名，青木3名の学生を指導。学生は，乳幼児を持つ母親の転入に関わる支援ニーズ，母子保健事例における市町村と医療機関との連携方法，過疎化が深刻な山村に住む乳幼児を持つ母親の育児支援ニーズと対処，生活改善が必要な前期高齢者の保健行動継続の関連要因，高齢者の糖尿病発症・重症化予防のための自己管理，山村地域に住む自営業者の健康管理，高齢者の介護予防の取り組みの契機と継続要因，高齢者の災害への備えと不安，へき地診療所看護師の看護実践，限界集落に居住する独居高齢者の暮らしの支えとなっているもの，重度要介護者を介護する家族の介護への向き合い方等の看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，春山が責任教員となり，テーマ「ICT（情報通信技術）を活用したその気にさせるための患者教育・保健指導」を本学科目教員全員で12名の学生を担当。⑪その他：青木，市川は担当者とともに，「へき地の生活と看護」（履修者36名）を担当した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により，夏季へき地研修は9月に3地域を対象とした遠隔研修（ZOOM）を実施した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

(1)春山は，令和4-5年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発」の研究代表者として，同研究を実施した。研究分担者は浜松医科大学の尾島俊之，千葉県立保健医療大学の雨宮有子，日本赤十字看護大学の井口理，日本大学の鈴木秀洋，宮城大学の江角伸吾，研究協力者は本学部の島田，舟橋，

- 長崎県県央保健所藤田利枝，山口県周南健康福祉センターの福田昭子，北海道医療大学の塚本容子，日本赤十字看護大学の佐藤太地であった。
- (2)青木は，平成30年-令和4年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（若手研究）による研究課題「離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験 離島類型別の特徴」の研究代表者として，同研究を実施した。
- (3)江角は，令和3-5年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「生活習慣病予備軍に対するICTツールを活用した自己管理強化プログラムの開発と検証」の研究代表者として，同研究を実施した。
- 研究分担者は本学部の春山，本学地域医療学センターの小谷和彦，富山大学の田村須賀子，研究協力者は本学附属病院の宮下洋，本学医学教育センターの浅田義和，本学部の舟橋千尋であった。
- (4)島田は，令和4-6年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「災害対応力向上のための自治体保健師による自立的ハイブリッド研修方法の開発」の研究代表者として，同研究を実施した。
- 研究分担者は本学部の春山，本学医学教育センターの浅田義和，宮城大学の江角伸吾であった。
- (5)島田は，令和4年度看護学部教員共同研究費による研究課題「ウィズコロナ・ポストコロナにおける地域包括ケアシステム構築のための住民の相互扶助の促進方法」の研究代表者として，同研究を実施した。
- 共同研究者は春山，塚本，市川，青木，江角，舟橋，下野市健康福祉部高齢福祉課の早乙女美奈子，江連正子，若林佑樹，下野市社会福祉協議会の桑島謙司，井上永子，隅谷サヨ子，黒須重光，黒川一巳，菅井貞雄，蓬田洋子であった。
- 2）研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合
- (1)春山は，令和4-5年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」（研究代表者：千葉大学大学院看護学研究院 宮崎美砂子）の研究分担者として参加し，分担研究「災害保健活動の実際とマニュアルの比較検証」を実施した。

- 研究協力者は本学部の島田，市川，岸であった。
- (2)春山は，令和4-6年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究」（研究代表者：慶應義塾大学看護医療学部 田口敦子）の研究分担者として参加し，分担研究「既存の電子データ活用による保健師活動評価に向けた指標の検討－効率的・効果的な保健活動の展開における統括保健師の役割遂行に向けて－」を実施した。
- 研究協力者は市川，江角，宇都宮市の初貝未来であった。
- (3)春山は，令和4年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「人口動態や地域の実情に対応するべき地医療の推進を図るための研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター 小谷和彦）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。
- (4)春山は，令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「離島の医療提供体制の構築に向けた調査研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター 小谷和彦）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。
- (5)春山は，令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究」（研究代表者：石川県立看護大学 真田弘美）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。
- (6)春山は，文部科学省 令和4年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業（学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究委託事業－保健師の質向上のための調査研究）である日本看護系大学協議会「感染症等の健康危機に対応できる保健人材養成のための調査研究事業」（調査事業実行委員会委員長：川崎市立看護大学 荒木田美香子）のコンピテンシー・ニーズ調査チームのリーダーとして参加し，同調査研究を実施した。
- 島田は，同チームのメンバーとして参加し，同調査研究を実施した。
- (7)春山は，令和2-4年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究

課題「Loss of control にあるALSの人々に「応答する看護」がもたらす影響（研究代表者：本学部の渡邊賢治）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- (8)塚本は、令和3-4年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「看護基礎教育における共助による学習エンゲージメント向上にむけた介入研究」（研究代表者：福岡女学院看護大学 石井慎一郎）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- (9)青木は、令和4-7年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「【離島の文化に即した災害保健活動】教育プログラム開発－地域らしさの回復を目指して（研究代表者：国立医療科学 丸谷美紀）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

- (1)春山は、日本ルーラルナース学会「日本ルーラルナース学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (2)春山は、Public Health Nursing(Wiley online library)の査読者を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (3)塚本は、千葉看護学会「千葉看護学会誌」の専任査読者を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (4)塚本は、日本ルーラルナース学会「日本ルーラルナース学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (5)塚本は、日本看護協会「日本看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (6)市川は、自治医科大学自治医科大学看護学ジャーナルの査読者を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (7)青木は、日本島嶼学会「島嶼研究」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

2) 学会発表抄録の査読

- (1)春山は、日本地域看護学会第25回学術集会の査読者を務め、学会発表抄録6本の査読を行った。
- (2)春山は、第11回日本公衆衛生看護学会学術集会の査読者を務め、学会発表抄録6本の査読を行った。
- (3)春山は、第42回日本看護科学学会学術集会の査読者を務め、学会発表抄録4本の査読を行った。

(4)青木は、日本ルーラルナース学会第17回学術集会の査読者を務め、学会発表抄録3本の査読を行った。

3) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)春山は、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員を務めた。

4) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)春山は、日本地域看護学会第25回学術集会において、教育講演3「今、あらためて働き盛り世代への健康へのアプローチ」の座長を務めた（2022.8.28）。
- (2)春山は、日本地域看護学会第25回学術集会において、一般演題 第25群「地域看護理論・モデル」の座長を務めた（オンデマンド配信2022年8月27日～2022年9月16日）。

- (3)青木は、日本ルーラルナース学会第17回学術集会において、一般演題口演 第6群「へき地における看護の専門性」の座長を務めた（2022.9.17）。

5) 非常勤講師、研修会等講師

- (1)春山は、令和4年度栃木県看護協会職能集会講演会（ハイブリッド）において、「コロナ感染症対策～これまでの公衆衛生現場におけるコロナ対策とこれから～」を講演した（2022.6.25）。
- (2)春山は、栃木県保険者協議会主催の令和4年度特定健診・特定保健指導実践者育成研修会（初任者編）（ハイブリッド）において、講義「生活習慣改善につなげるための初回面接のポイント～事前準備から行動計画立案～」の講師を務めた（2022.7.22, 61名）。
- (3)春山は、厚生労働省主催の令和4年度 保健師中央会議において、「感染症対策を含めたこれからの自治体保健師の役割」を講演し、その後のグループワーク「効果的・効率的な保健活動の推進に向けた多様な取組」のコーディネーターを務め、講評した（2022.8.3, ハイブリッド, 現地参加者81名）。
- (4)春山は、福岡県看護協会主催の令和4年度新型コロナウイルス感染症等業務にかかる研修において、「保健所における新型コロナウイルス感染症対応と応援者としての心構え」をWEB講義した（2022.8.6, 59名）。
- (5)春山は、日本私立看護系大学協会主催の新任教

- 員向け研修会「大学教育とは」において、「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」をWEB講演した（日本公衆衛生看護学会（2022.8.14, 125名, 動画視聴回数598回））。
- (6)春山は、令和4年度全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会（WEB開催）において、「次世代を担う保健師の人材育成と管理期保健師の役割」を講演した（2022.9.3, 124名）。
- (7)春山と島田は、山梨県看護協会主催の「災害時における行政保健師の役割と行動～コロナ禍における災害時の保健師活動」研修会（講義・演習）の講師を務めた（2022.8.23, 9.16の2日間, 13名）。
- (8)春山は、令和4年度福岡県地域保健従事者管理期研修において、「コロナ禍の今、管理期地域保健従事者に期待される役割～統括保健師配置の必要性～」を講演し、グループワーク「地域保健従事者の人材育成と人材確保」の助言者を務めた（2022.8.26, 32名）。
- (9)春山と島田は、岐阜県主催の「災害時保健活動遂行能力向上研修会（WEB研修, 講義・演習）の講師を務めた。青木は運営補助をした（2022.9.14, 9.15の2日間, 56名）。
- (10)春山と島田は、公益財団法人地域社会振興財団主催の第2回災害保健研修会「災害時に保健医療従事者に求められる被災者への対応と災害に備えた平常時の活動」（講義・演習）の講師を務めた（2022.10.29, 10.30の2日間, 20名）。
- (11)春山は、栃木県の令和4年度地域保健管理期職員研修（保健師管理者能力育成研修）において、「保健師管理者に必要な機能と能力」及び「根拠に基づく事業・施策の展開」を講義し、グループワークのコーディネーターを務めた（2022.11.2, 11名）。
- (12)春山は、令和4年度岐阜県保健師管理能力育成研修において、「保健師管理者に必要な機能と能力」をWEB講義し、グループワークの講評をした（2022.11.29, 33名）。
- (13)春山は、日本公衆衛生協会主催の令和4年度行政支援リーダー研修（厚生労働省 令和4年度健康危機緊急時対応体制整備事業）の事前研修（eラーニング）のWEB教材「受援側の準備・留意点－保健所機能の維持・強化のための人的資源の投入－」を更新した（2022.9.27, 59名, 10.13, 40名, 11.10, 71名, 12.1, 92名）。
- (14)春山は、日本公衆衛生協会主催の令和4年度行政支援リーダー研修（厚生労働省 令和4年度健康危機緊急時対応体制整備事業）のファシリテーターを務めた（2022.9.27, 59名, 10.13, 40名, 11.10, 71名, 12.1, 92名）。
- (15)春山は、全国保健師長会埼玉県支部令和4年度県部会研修会において、「保健師の働き方改革～パンデミックを越えて、持続可能な保健師を考える～」を講演した（2022.11.12）。
- (16)春山は、下野市庁内保健師等連絡会議自主研究グループ研修会において、講義「保健師活動指針を基本とした、これからの自分たちの保健師活動～自分の地域に愛着を持って、自分の言葉で紹介できますか？～」の講師を務めた（日本公衆衛生看護学会2022.11.25, 20名）。
- (17)春山は、第11回日本公衆衛生看護学会学術集会（仙台市）の健康危機管理セミナーC（ハイブリッド）において、「公衆衛生看護における健康危機管理の仕組みづくりとマネジメント」を講演した（2022.12.18）。
- (18)春山は、栃木県県北健康福祉センター主催、那須地区保健師業務研究会共済の令和4年度管内保健師人材育成研修会において、講話「災害時の保健師活動について」の講師を務めた（2022.12.26, 43名）。
- (19)春山は、富山大学地域連携推進機構 地域医療・保健支援部門主催の継続看護シンポジウムにおいて、「大学院で特定行為研修を受けることの意味」を講演した。また、その後の富山大学医学部看護学科大学院FD 座談会「大学院に特定行為研修をおくことの意義」において講師を務めた（2022.12.27）。
- (20)春山は、栃木県主催のICT活用保健指導セミナーにおいて、「保健指導におけるICTの活用（基本的知識・利点と課題等）」をWEB講演した（2023.1.20, 33名）。
- (21)春山は、国民健康保険中央会主催の令和4年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会における在宅保健師等会会員及び国保連合会担当者を対象とした配布資料として、「コロナ禍を踏まえた保健師等による災害対応・市町村支援等について」の講演動画を作成した（2023.1月末）。
- (22)春山は、令和4年度第（栃木県）県南健康福祉センター管内看護職員等研修会（中堅期対象、ハ

- イブリッド)「中堅期保健師がいきいきと活動するために」(講義・グループワーク)の講師を務めた(2023.2.15, 26名)。
- (23)春山は、令和4年度葛飾区保健師人材育成検討会「行政で働く保健師の役割と意味」の講師を務めた(2023.3.1)。
- (24)春山と島田は、埼玉県主催の令和4年度大規模災害時対応研修(講義「災害時において中堅保健師に求められる役割」・演習「避難所における保健活動」等)の講師を務めた(2023.3.2, 55名)。
- (25)春山は、令和4年度和歌山県統括保健師等研修会において、「ポストコロナ社会における統括保健師等に期待される役割」を講演し、またワークショップの講評をした(2023.3.14, 28名)。
- (26)春山は、本学看護師特定行為研修研修センターの令和4年度第1回看護師特定行為研修指導者講習会(2022.7.9, 30名)及び第2回看護師特定行為研修指導者講習会(2023.1.27, 27名)においてディレクターを務めた。
- (27)島田は、足利市主催の地域包括支援センター「災害プロジェクト会議」(机上訓練)の講師を務めた。(2022.9.12, 20名)。
- (28)島田は、南那須地区市町保健師業務研究会「災害時に求められる保健師活動と地域特性に合わせた平常時の取り組み」(研修、演習)の講師を務めた。(2022.10.5, 12名)。
- (29)島田は、ふくしまあじさい会において、健康教育「コロナフレイルの予防について」の講師を務めた。(2023.3.9, 20名)
- (30)市川は、令和4年度 足利市市内保健師研修会において、「個の支援から地域との連携や地域の課題などを考える」の講師を務めた(2023.2.20)。
- (31)市川は、令和4年度 桜川市保健師研修会において、「個の支援から地域との連携や地域の課題などを考える」の講師を務めた(2023.2.27)。
- (32)青木は、NPO法人へき地保健師協会理事として、オンライン交流会「へき地に興味がある学生・保健師・看護師さん もおりよ〜(おいでよ) 春から離島保健師の私の就職活動, 生活」のコーディネーターを務めた(2022.5.7, 15名)
- (33)青木は、NPO法人へき地保健師協会理事として、オンライン新任期保健師研修会「へき地で働く新任期保健師の集い」のコーディネーターを務めた(2022.9.23, 10名)
- (34)青木は、第80回日本公衆衛生学会自由集会「よその家庭の子どもを育てること、よその家庭で育てられること、離島留学が島にもたらすもの」のコーディネーターを務めた(2022.10.8, 16名)
- (35)青木は、NPO法人へき地保健師協会理事として、オンライン学生茶話会「与論島研修報告会」のコーディネーターを務めた(2022.10.10, 14名)
- 6) 学術団体・職能団体等の委員会活動
- (1)春山は、日本看護科学学会の代議員及び和文誌編集委員を務めた。
- (2)春山は、日本ルーラルナース学会の理事兼事務局長、青木は評議員及び広報委員、江角は編集委員、島田・舟橋は事務局員を務めた。
- (3)春山は、日本地域看護学会の理事及び災害支援のあり方検討委員長を務めた。
- (4)島田は、日本地域看護学会の災害支援のあり方検討委員を務めた。
- (5)春山は、日本公衆衛生看護学会の理事及び倫理委員長を務めた。
- (6)春山は、千葉看護学会の評議員を務めた。
- (7)春山は、文化看護学会の評議員を務めた。
- (8)春山は、厚生労働省の医道審議会臨時委員(保健師助産師看護師分科会員)を務めた。
- (9)春山は、厚生労働省の医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員を務めた。
- (10)春山は、厚生労働省 健康危機緊急時対応体制整備事業に基づく日本公衆衛生協会の健康危機管理支援事業の運営委員及び「健康危機管理研修検討作業部会」の委員を務めた。
- (11)春山は、東京都が設置した「感染症対応を踏まえた都保健所のあり方検討会」の委員を務めた。
- (12)春山は、令和4年度厚生労働省委託事業「地方衛生研究所の在り方に関する調査等」保健所ワーキンググループ及び保健師の人材育成ワーキンググループ並びに保健師人材ワーキンググループ 統括保健師の健康危機管理能力獲得に向けた人材養成プログラム開発 作業班の委員を務めた。
- (13)春山は、全国訪問看護事業協会の『訪問看護ステーションにおける「看護師の特定行為に係る研修」受講促進・活動支援事業』検討委員会委員を務めた。
- (14)春山は、栃木県の保健師現任教育のあり方検討会委員を務めた。

(15)春山は、下野市の健康づくり推進協議会会長を務めた。

(16)春山は、栃木市の健康増進計画推進部会及び市内ワーキング合同会議のアドバイザーを務めた。

(17)市川は、笠間市国保運営協議会の会長を務めた。

(18)青木は、結城市の介護保険審査会委員を務めた。

(19)青木は、NPO法人へき地保健師協会の理事長を務めた。

7) その他

(1)春山・塚本・島田・青木・舟橋は、栃木県感染症対策専門家派遣事業による専門家として、栃木県県南健康福祉センター（2022.7.30-9.19、春山5日間、塚本3日間、島田3日間、青木3日間、舟橋4日間）においてCOVID-19対策に係る支援を行った。

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

助教 路川 達阿起

助教 高崎 浩子（2022年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：学士（看護学，自治医科大学看護学部）

職歴：自治医科大学附属病院（看護師），
嶺南こころの病院（看護師），
福井県立病院（保健師）福井県総合福祉相談所・一時保護所（生活相談員），
下野市健康増進課（保健師・看護師），
株式会社キャリア（看護師），
宇都宮市保健所保健予防課（看護師），
株式会社ブレイブ（看護師）

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人および集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は，「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）を永井が15時間，「精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）を半澤12時間，永井16時間，路川2時間，「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）を永井12時間，半澤2時間，路川2時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で14時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー

（4年次後学期4単位；必修）では，学生10名に対して120時間を担当した。さらに，路川と永井は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の8時間（テーマ：認知症をもつ人とその家族への看護職の役割6時間を含む）を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を行い，アクティブ・ラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

なお，大学院看護学研究科博士前期課程において，共通科目として，半澤は「看護実践研究論」の科目責任者として8時間を担当している。永井は，同科目担当者として8時間と「コンサルテーション論」の科目責任者として15時間を担当している。

また，同博士後期課程においては，永井は1名の主指導教員となっている。半澤は，「広域実践看護学特論Ⅱ」および「広域実践看護学演習」（30時間）の科目責任者として各15時間を担当している。永井は，両科目のうち各2時間を担当している。

2) 精神看護学以外の担当教育概要

永井は，「生涯発達看護論」（1年次前学期1単位；必修）の16時間を，「グループ・アプローチ」（2年次前学期1単位；必修）15時間を担当した。また，永井，半澤，路川，髙橋は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

(1)半澤は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は永井，自治医科大学石井慎一郎，富川明子，帝京科学大学宮城純子であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)永井は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「精神科病棟における身

体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」（研究代表者：半澤節子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

- (2)永井は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」（研究代表者：湯浅美千代）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

- (1)永井は、日本病院地域精神医学会編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。

2) 学会発表抄録の査読

- (1)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会の企画委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

3) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)永井は、（公社）日本看護科学学会第43回学術集会の表彰論文選考の審査員を務めた。

4) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会において、第2群「地域の診療所における看護管理」の座長を務めた。
- (2)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、基調講演「『さわる』と『ふれる』から考える接触面の人間関係」を企画し、座長を務めた。
- (3)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、市民公開講座・シンポジウム「新型コロナウイルス感染症パンデミックによる看取りと家族ケアの変容」を企画し、座長を務めた。
- (4)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会において交流集会1「ルーラルエリアにおける『抑うつ状態にある人の看護』実践者の研修について」を企画し、路川、高崎とともに運営を担当した。
- (5)路川は、文化看護学会第14回学術集会において、交流集会「日本に在住する外国人患者の診療経験からみた医療と文化～ラテンアメリカからの外国人労働者とその家族のケアについて～」を企画し、座長を担当した。
- ##### 5) 非常勤講師、研修会等講師
- (1)永井は、栃木県東健康福祉センター健康支援課の令和4年度精神保健福祉活動受理会議コンサルテーションとして、管内関係者（保健師、

福祉専門職等）を対象に、2回にわたり計2事例について講師として助言を行った

- (2)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域保健中堅期職員研修（事例検討編）において、「事例検討で押さえておく知識（困難事例の特徴等）」と「困難事例の支援における資源の導入、調整」について講師を務め、助言を行った。

- (3)永井は、四日市医療看護大学大学院看護学研究科の「コンサルテーション論」において、科目責任者として8時間の非常勤講師を務めた。

- (4)永井は、栃木県看護協会保健師職能委員会の令和4年度保健指導ミーティングにおいて、講師として「メンタル的な課題を有する事例への支援について～保健指導スキルを上げるために」の講義を行い、事例検討で助言を行った。

- (5)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、会長講演「『ふれあう』暮らしと看護」について講演を行った。

- (6)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域保健中堅期職員研修（指導担当者編）において、「新人職員の事例検討で押さえておく知識（困難事例の特徴等）」と「困難事例の支援における資源の導入、調整」について講師を務め、助言を行った。

- (7)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域中堅期職員研修（事例検討編）第2回において「ネットワークの構築と連携の方法」について講師を務め、助言を行った。

- (8)永井は、栃木県精神科訪問看護ステーション協議会の令和4年度栃木県精神科訪問看護研修会において、「精神障害をもつ人の訪問看護に役立つ考え方と動向」について講師を務めた。

6) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)永井は、一般社団法人日本精神看護学会の代議員および理事を務め、倫理・利益相反委員会の委員長を務めた。

- (2)永井は、日本病院・地域精神医学会の編集委員を務めた。

- (3)永井は、北関東精神保健看護研究会の会長を務めた。

- (4)半澤は、北関東精神保健看護研究会の幹事を務めた。

- (5)路川は、北関東精神保健看護研究会の事務局員（会計担当）を務めた。

- (6)高崎は、北関東精神保健看護研究会の事務局員を務めた。
- (7)永井は、(公社)日本看護科学学会の表彰論文選考委員を務めた。
- (8)路川は、第14回文化看護学会の企画委員、事務局員(会計担当)、実行委員を務めた。
- (9)永井は、文化看護学会の第14回学術集会会長を務めた。
- (10)永井は、文化看護学会のCOI委員を務めた。
- (11)永井は、一般社団法人日本看護学教育学会の選挙管理委員を務めた。
- (12)永井は、日本ルーラルナース学会の評議員および理事を務めた。
- (13)永井は、日本看護系学会協議会のCOIワーキンググループ員を務めた。
- (14)永井は、看護系学会等社会保険連合の社員として診療報酬及び介護報酬体系の在り方に関する検討委員を務めた。

7) その他

- (1)永井、路川は、感染症対策専門家派遣事業において、新型コロナウイルス感染症に係る保健所支援を行った(2022.1.~3.31)。
- (2)永井は、社会福祉法人こぶしの会の評議員を務めた。
- (3)永井は、社会福祉法人ブローニュの森の評議員を務めた。
- (4)永井は、下野市健康増進課の「下野市自殺対策ネットワーク協議会」の会長を務めた。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 川野 亜津子

取得資格：看護師，助産師

学歴：自治医科大学看護短期大学卒業，京都大学医療技術短期大学部専攻科助産学専攻修了，筑波大学大学院医科学修士課程医科学専攻修了，修士（医科学），筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程ヒューマン・ケア科学専攻修了，博士（ヒューマン・ケア科学）

職歴：自治医科大学附属病院助産師，東京大学医学部附属病院助産師，筑波大学医学医療系保健医療学域助教，准教授（母性看護学・助産学）

准教授 角川 志穂

助教 上野 知奈

助教 谷田部 典子

助教 二宮 美由紀

取得資格：看護師，助産師

学歴：栃木県南高等看護専門学院卒業，自治医科大学看護短期大学専攻科助産学専攻修了，放送大学卒業，自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程修了，修士（看護学）

職歴：足利赤十字病院，自治医科大学看護学部 臨時教員（母性看護学），自治医科大学看護学部助教（母性看護学）

助教 前田 彩乃（令和4年4月1日付採用）

取得資格：看護師，助産師，保健師

学歴：国際医療福祉大学保健医療学部卒業，国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻助産学分野修了，修士（助産学）

職歴：自治医科大学附属病院産科病棟（大野医院出向）

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期1単位：必修）

成田が担当し，川野，角川の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプ

ロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。事後課題の提出を求め，知識の定着を図った。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，成田，川野，上野，谷田部，二宮，前田が協力し実施した。コロナ感染対策のため，子育て期にある母子との交流をZoomで行い，経験豊富な助産師にファシリテーターとして演習に参加してもらった。遠隔での演習ではあったが，学生からは子育て中の母親の状況や乳児の様子を知ることができ，有意義であったとの感想が得られた。妊婦・産婦のアセスメントには，臨床スタッフの協力を得て実施し，少人数の学生に対して，十分な指導を行えるように体制を整えた。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任として総括し，成田，川野，上野，谷田部，二宮，前田が協力し実施した。妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，コロナ感染対策のため，動員できる指導者が少ないため，内容を整理精選し，学生が最低限必要な知識を得られるように調整した。周産期看護実習につながる看護過程については，角川が中心となって実習時の展開を意識した書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで，講義，アセスメントや看護技術の演習，事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

(4)生涯発達看護学概論Ⅴ（4年次前学期1単位：必修）

成田が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。コロナ感染対策のため，事後課題の提出を求め，知識の定着を図った。

(5)周産期看護実習（3年次後学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，川野，角川，上野，谷田部，二宮，前田が分担して担当した。コロナ感染対策のため，産科病棟でのケース受け持ち実習は密にならないように，附属病院では褥婦担当，新生児担当と学生の役割を分けて，ケアや記録の時間帯，場所を分散させて実習を行った。またさいたままでは，昼休憩の時間を調整し午後まで継続

して実習し、病棟にいる時間を短縮し、その後学生控室で学習の振り返りを行うことで学習内容を保証し、一部産科クリニックでの実習とした。地域での支援の実際を学ぶため、助産所での産後ケアの見学実習を組み込んだところ、入院施設退院後の母子の生活のイメージが広がった。

2) 助産学に関する教育概要

(1) 助産学概論（3年次前学期1単位：選択）

4年次助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考に必須な選択科目であり、受講希望の学生は受講可能な科目である。成田が科目責任者として総括し、川野、角川、谷田部の、非常勤講師の小嶋由美氏の協力を得て実施した。21名が受講した。助産師の概念、助産師活動の概要、助産師の国際活動、海外の母子保健、性と生殖の健康と人権、助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては、事例に基づき意見交換を行うことで、学生が支援方法を考えることができた。

(2) 基礎助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、川野が科目責任者として総括し、上野の協力を得て実施した。

(3) 基礎助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、角川が科目責任者として総括し、講義・演習を展開した。

(4) 基礎助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、成田が科目責任者として総括し、講義・演習を展開した。

(5) 実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、川野が科目責任者として総括し、上野、成田、角川、谷田部、二宮、前田が協力し、一部非常勤講師と一緒に講義・演習を展開した。

(6) 実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、川野が科目責任者として総括し、上野、成田、角川、谷田部、二宮、前田が協力し、また非常勤講師小林由美氏の協力を得て講義・演習を展開した。分娩介助の演習については、実習施設において臨地実習指導者に直接指導いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(7) 実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、角川が科目責任者として総括し、一部非常勤講師とともに講義・演習を展開した。学生はDVDを活用しながら、事前学習を行い、短期集中で少人数での演習を行った。

(8) 実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、川野が科目責任者として総括し、成田と非常勤講師藤川智子氏の協力を得て、地域における助産師の母子保健活動、産褥期の健康教育・保健指導について教授した。健康教育・保健指導については課題レポートの作成と対面下での指導を実施し、学習効果を高めた。

(9) 助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生4人に開講し、成田が科目責任者として総括し、非常勤講師として武藤香子氏の協力を得て、助産師の活動に関わる管理の概念と活動、災害時の役割、助産業務と医療事故などについて教授した。

(10) 助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生3名が受講し、全員が修了した。川野が科目責任者として総括した。自治医科大学附属病院での実習は、川野、成田、角川、上野、谷田部、前田、二宮が担当した。コロナ感染対策のため、感染予防に十分留意して実習した。分娩期の対象者を受持ち、ケアを展開し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

成田は助教の甲賀氏と、川野は助教の井上氏と、谷田部は教授の里光氏と、二宮は教授の塚本氏と、前田は教授の永井氏と組み、それぞれ1グループ担当した。

(2) 文献講読セミナー（3年次後学期1単位：必修）

角川が8名の学生を担当し、研究動機の整理からキーワードの設定、文献検索および文献検討をグループワークで実施し、最終的にはレポート作成までの指導を行った。

(3) 研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

川野が科目責任者として総括し、講義は川野が担当、グループワークの指導を成田、角川、田村、小西、上野、谷田部、二宮、前田、飯島が担当した。レポート作成にあたっては、グループ毎に教員が担当し、グループワークを3回実施し、レ

ポート提出に至った。レポートの評価にはポートフォリオを用い、レポート内容に必要な事項を確認しつつレポート作成を支援すると共に、レポート評価に用いることで、全学生の評価基準を統一した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、川野、角川、上野、谷田部、二宮、前田で母性看護学領域に配置された学生16名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟・外来およびNICU、附属さいたま医療センター、大野医院、おおひらレディースクリニック、ことり助産院、ままと赤ちゃんの家、さくら産後院、さいたま助産院に加え、医療的ケア児の在宅生活を支援している特定非営利活動法人だいじ、特定非営利活動法人うりずん、地域での助産師の活動については栃木県助産師会の協力を得て、それぞれの学生の研究課題に基づいて立案した実習計画に則って実習した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、臨地スタッフの協力を得て実施した。講義・演習とも対面で実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識について教授した。

(6)看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が分担者として協力した。

(7)ジェンダー論（1、4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当した。非常勤講師の白井氏の講義は遠隔で実施し、35名が受講した。ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)川野は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「産後鬱予防システム確立に向けたバイオマーカーとしてのオキシトシンの有用性」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は金澤悠喜（筑波大学医学医療系）、山海千保子（茨城県立医療大学）、川野道宏（佐久大学）、連携研究者は宇佐美絵里（筑波大学人間総合科学研究群）、徳永

明日香（松戸市立総合医療センター）であった。

(2)上野は、看護学部共同研究費の助成を受け、「育児期の母親のインターネット利用とヘルスリテラシーに関する文献レビュー」の研究を実施した。共同研究者は、大下倍代（助産所ままと赤ちゃんの家）、小嶋由美（ことり助産院）、本学部教員 谷田部、角川、成田であった。

(3)谷田部は、看護学部共同研究費の助成を受け、「予期せぬ妊娠をした女性を支援する組織の実態と課題」の研究を実施した。共同研究者は、小嶋由美（ことり助産院院長、母性看護CNS）、大下倍代（ままと赤ちゃんの家院長）、本学部教員 角川、成田であった。

(4)川野は、看護学部共同研究費の助成を受け、「栃木県における母乳育児支援の実態及び今後の課題についての検討」の研究を実施した。共同研究者は藤川智子（藤川赤ちゃん相談室、非常勤講師）、小嶋由美（ことり助産院、母性看護専門看護師、非常勤講師）、武藤香子（自治医科大学大学院研究生）田中純（自治医科大学附属病院産科師長、臨地講師）、大貫晃子（自治医科大学附属病院産科師長、臨地講師）、本学部教員 成田、角川、二宮、谷田部、上野、前田であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)川野は、文部科学省科学研究補助金（若手研究）による研究課題、「地域における認知行動療法に基づく育児ストレス軽減プログラムの定着を試みる」（研究代表者：山海千保子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(2)川野は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題、「自己主体感が内的動機づけに与える影響と運動学習への効果」（研究代表者：川野道宏）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)成田は、自治医科大学附属病院産科病棟の看護師を対象に、研究課題「切迫早産で長期入院となった妊婦の夫が出産後に抱く育児不安」について研究指導を行った。

- (2)川野は、自治医科大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「母子ともに通常退院できた精神疾患合併妊婦への退院支援」について、研究指導を行った。
- (3)川野は、自治医科大学附属病院新生児集中治療部の看護師を対象に、研究課題「入職後のNICU看護へのギャップを提言するためのNICU実習における課題」について、研究指導を行った。
- (4)川野は、茨城西南医療センター病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「母乳不足感をもつ母親に対する国際認定ラクテーション・コンサルタントによるエモーショナルサポートの実態」について、研究指導を行った。
- (5)川野は、筑波大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「自閉症スペクトラムと類似した特性を持つ妊産褥婦に対する助産師の支援」について、研究指導を行った。
- (6)川野は、筑波大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「第一子誕生直後における妻および夫の感情の変化」について、研究指導を行った。
- (7)角川は、自治医科大学附属病院産科病棟の看護師を対象に、研究課題「初産の双胎妊婦が行う家族内役割調整と産後1ヵ月までのサポートの実際」について論文作成の指導を行った。

2) 論文の査読

- (1)成田は、日本看護科学学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (2)成田は、栃木県母性衛生学会誌「とちほ」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (3)成田は、自治医科大学看護学部「看護学ジャーナル」の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (4)成田は、日本母性看護学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (5)川野は、日本助産学会誌の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (6)川野は、日本看護理工学会誌の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (7)川野は、茨城県母性衛生学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (8)川野は、自治医科大学看護学部「看護学ジャーナル」の査読委員を務め、投稿論文の査読を

行った。

- (9)川野は、“BMC Pregnancy and Childbirth”の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (10)川野は、“NPJ Vaccines”の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (11)川野は、“Archives of Women's Mental Health”の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (12)川野は、“BMC Microbiology”の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (13)角川は、日本母性看護学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (14)角川は、日本助産学会編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (15)角川は、栃木県母性衛生学会雑誌とちほの査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

- (1)成田は、第27回日本看護管理学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (2)川野は、第9回日本フォレンジック看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表の査読を行った。
- (3)角川は、第24回日本母性看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

4) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)成田は、埼玉県立大学の埼玉県立大学研究評価委員を務め、埼玉県立大学奨励研究発表会への参加と評価を行った。
- (2)川野は、令和5（2023）年度 日本学術振興会「基盤研究(B)」課題の専門的な見地からの審査意見書作成者として意見書を作成した。
- (3)川野は、総合病院土浦協同病院の研究発表会への参加と講評を行った。

5) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)成田は、第36回日本母性衛生学会学術集会において、一般演題(口演)「助産管理・システム」の座長を務めた。
- (2)成田は、第44回 山形県母性衛生学会学術集会において、シンポジウム「ライフサイクルを見据えた妊娠・育児期の糖代謝異常女性に対する支援」のコーディネーター及びシンポジストを務め、「周産期の糖代謝異常の病態・診断・治療とその支援の考え方～妊娠糖尿病既往女性の2型糖尿病発症予防と在宅妊娠糖尿病患者指導管理料～」を講演した。

6) 非常勤講師、研修会等講師

- (1)成田は、看護経済政策研究学会12回学術集会において、パネリストとして「助産師のキャリア開発」を講演した。
- (2)成田は、第63回日本母性衛生学会学術集会の交流集会⑨「強くなろう！周産期の糖代謝異常の考え方とケア」において、「妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、並びに糖尿病合併妊婦の妊娠期・分娩期の管理」の講義を担当した。
- (3)成田は、日本母性看護学会糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー+助産師外来での在宅妊娠糖尿病患者指導管理料獲得を目指すセミナーを企画・開催すると共に、「糖尿病と妊娠期の糖代謝状態の基礎知識」「糖代謝異常妊産褥婦の看護の基本～周産期の糖代謝異常の血糖コントロールと食事・運動～」「診療報酬の仕組みと在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の講義を担当した。
- (4)川野は、日本女子大学家政学部 非常勤講師「家庭看護学」の科目を担当した。
- (5)角川は、栃木県衛生福祉大学校の非常勤講師を務め、「ハイリスク妊産褥婦の看護」について講義を行った。

7) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)成田は、日本母性看護学会看護政策検討委員会の委員長を務めた。
- (2)成田は、日本母性看護学会生涯学習支援委員会副委員長を務めた。
- (3)成田は、栃木県助産師会副会長兼事務局長として、研修会の開催および事務業務を総括した。
- (4)川野は、茨城県母性衛生学会監事、編集委員を務めた。
- (5)川野は、日本フォレンジック看護学会選挙管理委員会の委員を務めた。
- (6)角川は、日本母性看護学会の高度実践看護推進委員会の委員を務めた。

8) その他

- (1)成田、川野、角川、上野、谷田部、二宮、前田は、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターNICUで、退院後の育児、相談や親同士の交流を目的に月1回発行している会誌「すくすくクラブ」の原稿執筆を行った。
- (2)成田、谷田部、上野、二宮は、とちぎ多胎ネットの多胎プレパママ教室の開催において、現地活動を（2023.3.25）本看護学部母子ケアラボで支援した。

小児看護学

教授 横山 由美

1. スタッフの紹介

教授 横山 由美
准教授 田村 敦子
講師 小西 克恵
助教 飯島 早絵

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

- (1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

横山が科目責任者として総括し，小西，飯島が分担して実施した。

- (2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対する援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し，小西が分担して実施した。また，非常勤講師朝野が2時間講義を担当した。

- (3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任者として総括して実施した。演習は，横山，田村，小西，飯島で実施した。非常勤講師の医学部精神医学柳橋，医学部小児科学田村が2時間ずつ講義を担当した。

- (4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）

小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

小西が科目責任者として総括し，講義は田村が分担して実施した。演習は，横山，田村，小西，飯島で実施した。非常勤講師として，医学部小児外科学小野，小児科学村松が2時間ずつ講義を担当した。

- (5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，小西，飯島，久保（臨時教員），堀田（臨時教員）が担当した。

2) 小児看護学以外の担当教育概要

- (1)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

田村，小西が分担者としてグループを担当した。

- (2)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村，小西，飯島で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。

- (3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，小西，飯島で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

- (4)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

【小児看護学】では田村が統括し，本学附属病院看護部加藤，吉田が一部講義を担当した。

3. 研究活動の概要

- 1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

- (1)田村は，文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「肝移植後の思春期患者に向けた多職種連携による自立支援プログラムの構築」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本医学部教員眞田幸弘，埼玉県立小児医療センター水田耕一，大手前大学国際看護学部望月であった。研究協力者は，本学附属病院看護部朝野春美，大海佳子，大畑紀恵，黒田光恵，吉田幸世，本学附属病院薬剤部大垣景子，東京家政大学及川郁子，上智大学総合人間科学部看護学科手塚園江であった。

- (2)田村は，看護学部教員共同研究費による研究課題「新型コロナウイルス感染症対策による面会制限下でのNICU看護師のFCCの実践」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は，附属病院看護部NICU主任看護師の小嶋であった。

- 2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

- (1)横山は，文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「保育士の食物アレルギー児への対応力を高めるための研修プログラム開発」（研究代表者：獨協医科大学玉村尚子）に分担

研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

- (1)横山は、日本小児看護学会誌専任査読者を務め、投稿論文の査読を行った。
- (2)横山は、日本ルーラルナーシング学会専任査読者を務め、投稿論文の査読を行った。

2) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)横山は、健やか次世代育成総合研究事業の研究助成の審査員を担当した。

3) その他

- (1)田村、小西、飯島は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児、相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- (2)田村は、「栃木県感染症対策専門家派遣事業」において、現地活動を（2022.9.3～9.18）、県南健康福祉センターで行った。

成人看護学

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

准教授 佐藤 幹代

准教授 長谷川 直人

講師 古島 幸江

講師 渡邊 賢治（2022年4月1日昇進）

助教 遠藤 香奈

（2022年7月30日から出産・育児休暇、
2023年4月1日看護部に異動）

助教 館沼 麗奈（2022年4月1日着任）

取得資格：看護師、保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属病院に看護師として
勤務

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は、成人期にある対象の生活と健康課題の理解に基づき、健康危機あるいは長期療養を要する機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1) 成人看護学に関する教育概要

村上が科目責任者として科目全体を統括した。

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期1単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、村上が11時間、佐藤が2時間、長谷川が2時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、村上が4時間、佐藤が2時間、長谷川が8時間、古島が8時間、渡邊が8時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

古島が科目責任者として統括し、長谷川が2時間、古島が10時間、渡邊が2時間の講義を担当した。演習16時間は、成人看護学全教員が担当し、主企画担当として、村上・古島（看護過程14時間）、長谷川（循環機能障害2時間）が展開した。

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し、佐藤が13時間、渡邊が2時間の講義を担当した。

(5)成人実践看護学Ⅳ（2年次後学期1単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し、長谷川が4時間、佐藤が4時間、渡邊が4時間の講義を担当した。演習18時間は、成人看護学全教員が担当し、主企画担当として、長谷川（看護過程14時間）、佐藤（感覚機能障害2時間）、渡邊（運動機能障害2時間）が展開した。

(6)成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

Covid-19の影響で、臨地実習ではなく学内実習に実習方法を変え、佐藤が科目責任者として統括し、佐藤、長谷川、古島、渡邊、館沼が2クール（4週間）を担当した。また、村上の監督下で、鈴木千佳非常勤職員が2クール（4週間）を担当した。

(7)成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、佐藤、古島、遠藤、館沼が3クール（6週間）、渡邊が2クール（4週間）、TAの小川が村上の監督下で1クール（2週間）を担当した。

(8)成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し、長谷川が5クール（10週間）、佐藤、古島、遠藤、館沼が2クール（4週間）、渡邊が1クール（2週間）、TAの小川が渡邊の監督下で1クール（2週間）を担当した。

2) 成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

遠藤、館沼がグループ別セミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し、佐藤が8時間の講義を担当し、佐藤、長谷川、古島、渡邊がグループ別セミナーを担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

村上が統括し、成人看護学全教員が学生20名を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

村上が統括し、成人看護学全教員が学生20名を指導した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

渡邊が成人看護学のトピックスの統括と主企画者として4時間の講義を担当し、村上と館沼

が補佐した。

(6)チーム医療論（2年次後学期1単位：必須）

古島が科目責任者として統括し、村上が7時間、佐藤が2時間、長谷川が2時間、古島が4時間、遠藤が1時間の講義を担当した。

(7)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

古島がグループ別研修指導を担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「特定行為研修修了看護師がチーム医療の中で機能する組織体制づくりの支援に関する研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。分担研究者は、本学部教員の八木、鈴木、川上、本学医学部教員の浅田義和であった。

(2)長谷川は、看護学部教員共同研究費による研究課題「周術期看護学領域で構築された理論・概念・立言分析に基づく術後急性期患者への看護実践の経験的検証」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は、本学部教員の古島、村上、佐藤、佐々木、渡邊、遠藤であった。

(3)渡邊は、日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）による研究課題「Loss of controlにあるALSの人々に「応答する看護」がもたらす影響」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、本学部教員の春山、鹿野であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)村上は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」(研究代表：小谷和彦)に研究分担者として参加、同研究を実施した。

(2)村上は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」(研究代表：永井良三)に研究分担者として参加、同

研究を実施した。

(3)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究」(研究代表：八木街子)に研究分担者として参加、同研究を実施した。

(4)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「ウィズコロナ・ポストコロナ時代のリアリティをもつ「人体の構造と機能」教授法の開発」(研究代表：神崎秀嗣)に研究分担者として参加、同研究を実施した。

(5)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「特定行為を実践する看護師に対する意思決定支援トレーニングプログラムの開発」(研究代表：関山友子)に研究分担者として参加、同研究を実施した。

(6)長谷川は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」(研究代表：永井良三)に研究協力者として参加、同研究を実施した。

(7)佐藤は、文部科学省科学研究費補助金（基盤型研究(C)）による、「看護基礎教育における糖尿病の【語り】をいかしたセルフマネジメント支援教材の開発」(研究代表者：神奈川県立保健福祉大学 高橋奈津子教授)に、分担研究者として参加、同研究を実施した。

(8)佐藤は、文部科学省科学研究費補助金（基盤型研究(C)）による、「慢性疼痛患者に対するライフリテラシーを用いたソーシャルワークのプログラム開発」(研究代表者：日本福祉大学 小原真知子教授)に、分担研究者として参加、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)村上、渡邊は、地方独立行政法人新小山市民病院の看護師を対象に、院内研究の指導ならびに、研究指導の講演を行った。

(2)長谷川は、自治医科大学附属病院血液科病棟の看護師を対象に、研究課題「造血細胞移植に携わる看護師の教育課程で抱く思い」について、研究指導を行った。

(3)佐藤は、自治医科大学附属病院循環器病棟の看護師を対象に、研究課題「急性心不全による再入院を経験した患者の退院後訪問の看護支援」について、研究指導を行った。

(4)古島は、自治医科大学附属病院血液科病棟の看護師を対象に、研究課題「無菌室入室中の同種移植患者における生着後の食欲不振の影響要因の探索」について、研究指導を行った。

2) 論文の査読

(1)村上は、日本クリティカルケア看護学会「日本クリティカルケア看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。

(2)村上は、日本看護科学学会「日本看護科学学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。

(3)村上は、日本看護管理学会「日本看護管理学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

(4)長谷川は、日本糖尿病教育・看護学会の専任査読者を務め、投稿論文の査読を行った。

(5)佐藤は、日本クリティカルケア看護学会誌「日本クリティカルケア看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

(6)佐藤は、自治医科大学看護学ジャーナル 投稿論文1本の査読を行った。

(7)佐藤は、公益社団法人 日本看護協会の査読員を務め、「日本看護学会誌」の投稿論文3本の査読を行った。

(8)古島は、日本手術看護学会「日本手術看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

(9)古島は、常磐大学「常盤看護学研究雑誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

(1)村上は、第17回日本ルーラルナース学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

(2)村上は、第22回栃木看護学会の企画委員・査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

(3)村上は、第42回日本クリティカルケア看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

(4)長谷川は、第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会の学会発表抄録の査読を行った。

(5)古島は、第53回日本看護学会学術集会抄録選考

委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

4) 学外研究助成金・学位論文等の審査

(1)佐藤は、独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤研究(S)）の新規課題の選定に係る審査意見書を作成した。

(2)佐藤は、日本学術振興会の科学研究費助成金審査委員を務めた。

5) 学会のシンポジウムなどの座長

(1)古島は、第36回日本手術看護学会年次大会において、手術看護実践指導看護師活動報告会の座長を務めた。

(2)古島は、第36回日本手術看護学会年次大会において、シンポジウム「新たな時代の周術期医療」の座長を務めた。

6) 非常勤講師、研修会等講師

(1)村上は、「2022年度第1回・第2回看護師特定行為研修指導者リーダー養成研修会（全日本病院協会主催）」において、講師を務めた。

(2)村上は、山形県看護協会主催の『「特定行為に係る看護師の研修制度」の理解と活用」研修会の講師を務めた。

(3)村上は、第21回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会において、パネルディスカッション「地域で支える在宅医療」のパネリストを務めた。

(4)長谷川は、栃木県看護協会の実習指導者講習会において、「実習指導方法演習」について講師を務めた。

(5)佐藤は、栃木県看護協会の県委託事業 実習指導者講習会において、「実習指導の評価」について講師を務めた。

(6)佐藤は、栃木県看護協会の一般研修において、テーマ「患者にしか語れない言葉に耳を傾け患者主体の看護を創造する」について講師を務めた。

(7)佐藤は、自治医科大学看護学部主催 地域ケア事業において、「高齢者看護（認知症）演習」について講師を務めた。

(8)古島は、第57回日本手術看護学会北海道地区学会・総会において、特別講演「ひと・こころ・場をつなぐ手術看護」の演者を務めた。

(9)古島は、第33回日本手術看護学会関東甲信越地区学会において、特別講演「今求められている手術室看護師の役割と活躍の場」の演者を務めた。

7) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)村上は、日本ルーラルナース学会の評議員として渉外担当を務めた
- (2)村上は、栃木県看護協会の栃木看護学会の企画委員を務めた。
- (3)村上は、日本クリティカルケア看護学会の評議員でCOI委員を務めた。
- (4)村上は、日本集中治療医学会の集中治療タスクシェアに関する安全指針作成WGのメンバーを務めた。
- (5)村上は、日本看護研究学会の評議員を務めた。
- (6)村上は、日本看護技術学会の評議員を務めた。
- (7)村上は、看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会の理事を務めた。
- (8)村上は、一般社団法人 日本地域医療学会専門医制度委員会の専門医認定部会委員を務めた。
- (9)村上は、一般社団法人 日本遠隔医療学会の運営会議評議員を務めた。
- (10)佐藤は、日本保健医療社会学会の編集委員を務めた。
- (11)佐藤は、認定NPO法人 健康と病いの語りディベックス・ジャパンの理事を務めた。
- (12)佐藤は、日本医療ソーシャルワーカー協会の保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修担当チーム協力員を務めた。
- (13)古島は、日本手術看護学会の指名理事として学会あり方委員会委員長を務めた。
- (14)古島は、日本手術看護学会の指名理事として学会認定制度委員会委員を務めた。
- (15)古島は、日本手術看護学会・日本臨床工学技師会合同の清潔野補助業務に関わる認定制度の構築プロジェクトWGのリーダーを務めた。

8) その他

- (1)村上は、医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院特定行為研修管理委員会の外部委員を務めた。
- (2)長谷川は、日本ルーラルナース学会の事務局員を務めた。

老年看護学

教授 上野 まり

1. スタッフの紹介

教授 上野 まり

教授 浜端 賢次

助教 酒井 千裕

助教 沼野 莉奈（2022年5月1日着任）

取得資格：看護師・保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属病院（看護師）

2. 教育の概要

老年看護学科目の教育目標は、老年期における対象の特徴と健康課題、さらに生活課題にも視野を広げ、学びを深めることである。急性期治療を要する高齢者への看護及び慢性疾患を持ちながら自宅や施設で日常生活を送る高齢者とその家族への看護について学び、高齢者看護に必要な基礎的な知識、技術を身に付けることである。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（1年次前学期1単位：必修）

上野(ま)が科目責任者として担当し、老年看護学の概念及び歴史ならびに理論的背景について講義し、老年期にある人の身体的、精神的、社会的側面の特徴の理解を主目的とした。

(2)老年実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）

上野(ま)が科目責任者として担当し、高齢者の生活および高齢者ケアシステムと保健問題に関わる看護の役割について講義した。老年在宅看護実習先である訪問看護ステーション統括所長の鮎澤みどり氏の協力を得て、訪問看護の事例を踏まえわかりやすい講義を学生に提供した。

(3) 老年実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し、加齢のプロセスにより生じる様々な健康段階を理解し、生活・療養の場に応じた高齢者のエンパワーメントを生み出す看護援助の方法について講義した。高齢者の健康障害や特有な疾患、生活機能レベルをふまえた看護活動を学び、さらに高齢者の倫理的課題についても分かりやすい講義を展開した。また、臨床の看護の実際として、太田信子臨床講師、小松崎香臨床講師、宮沢玲子臨床講師、田村恵理子

臨床講師による講義を加え、高齢者の退院支援事例を展開する講義を実施した。

(4)老年実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し、老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、健康段階に応じた老年看護技術を展開した。具体的には、咀嚼・嚥下障害、排泄障害、皮膚障害、運動障害のある高齢者への看護について演習を展開した。さらに、認知症高齢者への看護についても、教員同士のロールプレイを通じた演習を展開した。

(5)老年臨床看護学実習（3年次前学期2単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し、隣接する附属病院に協力いただき、6つの病棟で看護学実習を展開した。さらに、高齢者施設に入所する要介護高齢者の理解を目的として、県内の7箇所の介護保険施設での実習を取り入れ、2週間の実習を展開した。

(6)老年在宅看護実習

上野(ま)が科目責任者として担当した。新型コロナウイルス感染拡大は収束に近づいてはいたが、新たな実習先を加えることによって、実習を中止することなく予定通り実施することができた。地域看護学の教員と協働して、最後の2週間は実習指導を行った。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期2単位：必修）

浜端は科目責任者の役割を果たし、高崎助教と8名の学生を担当した。上野(ま)は舟橋助教と8名の学生を、酒井は平尾准教授と9名の学生を、沼野は倉科准教授と市川講師と9名を担当した。

(2)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

11名の学生を対象に、看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた実習計画書の作成及び実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員が1～4名の学生を担当した。

(3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

上野(ま)が統括し、川上准教授を含めた5名の教員が11名の学生の研究テーマに合わせて、実習場所及び対象者を選定し、実習内容が研究テーマに沿うよう配慮しながら指導を行った。

(4)看護トピックス（4年次通年1単位：必修）

川上准教授を中心に、10名の学生を対象として高齢者ケアにおけるロボット技術活用の現状と課

題について、講義と演習を展開した。学習内容の共有のため成果発表の機会を設けた。

(5)看護管理学（4年次前期1単位：必修）

上野(ま)が科目責任者として担当し、非常勤講師の協力を得て実施した。非常勤講師は附属病院看護部長、医療情報部担当看護師長、教育担当副部長であった。また、浜端は高齢者施設の看護管理、上野(ま)は訪問看護ステーションの看護管理についても教授した。

(6)保健医療福祉システム論（1年次後期2単位：必修）

上野(ま)は、介護保険制度について1回の講義を担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)浜端は、文部科学省研究助成金（基盤研究(C)）による研究課題「認知症高齢者地域包括ケア病棟に入院する認知症高齢者を支援する多職種専従チームの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は慶応大学 春田淳志、東北福祉大学 宮林幸江であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)上野(ま)は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「独立型訪問看護ステーション看護師による精神障害者の退院直後集中支援モデルの開発」（研究代表者：東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 嶋澤順子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(2)上野(ま)は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「精神障害者の退院支援語における訪問看護師と自治体保健師の連携支援モデルの構築」（研究代表者：東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 嶋澤順子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(3)上野(ま)は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「精神障害を持つ母親の育児破綻予防を目指す育児能力形成のための看護援助モデルの開発」（研究代表者：群馬県立県民科学大学 看護学部 大澤真奈美）に、分担協力者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)上野(ま)は、自治医科大学埼玉医療センターの看護師を対象に、研究課題「終末期心不全患者に関する課題」について、研究指導を行った。

(2)浜端は、自治医科大学埼玉医療センターの看護師を対象に、研究課題「身体拘束に関する課題」について、研究指導を行った。

(3)浜端は、庄原赤十字病院（広島県）の看護管理者を対象に、研究課題「新人看護師に実施した入職前研修の効果」について、研究指導を行った。

2) 論文の査読

(1)上野(ま)は、日本在宅ケア学会誌の論文1本の査読を行った。

(2)上野(ま)は、日本地域看護学誌の編集委員を務め、論文3本の査読を行った。

(3)浜端は、自治医科大学医学部紀要において、論文1本の査読を行った。

(4)浜端は、自治医科大学看護学ジャーナルにおいて、論文1本の査読を行った。

3) 非常勤講師、研修会等講師

(1)上野(ま)は、順天堂大学大学院において、非常勤講師を務めた。

(2)上野(ま)は、愛媛県訪問看護協議会の管理者研修において、講師を務めた。

(3)上野(ま)は、徳島大学大学院医歯薬学研究部看護リカレント教育センター「在宅看護認定看護師課程」の非常勤講師を務めた。

(4)浜端は、栃木県厚生連協会の看護管理者研修において、「人生の最期を支えるための倫理的課題の理解と看護の在り方」の講師を務めた。

4) 学術団体・職能団体等の委員会活動

(1)上野(ま)は、日本在宅ケア学会理事および在宅ケアイノベーション研究研修委員会委員長、JANA担当理事、専任査読委員を務めた。

(2)上野(ま)は、日本地域看護学会編集委員および代議員、千葉看護学会専任査読委員および代議員、日本看護科学学会の代議員を務めた。

(3)上野(ま)は、横浜市の介護認定審査委員を務めた。

(4)上野(ま)は、第27回在宅ケアネットワーク栃木の世話人として、2月11日に自治医科大学における開催を支援した。

総合科目担当

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

講師 鈴木 美津枝
佐々木 彩加

2. 教育の概要

1) 総合科目に関する教育概要

- (1)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）：
鈴木、佐々木は、成人看護学領域の教員とともに
に学生を指導した。
- (2)総合実習（4年次前学期2単位：必修）：鈴木、
佐々木は成人看護学領域の教員とともに学生を
指導した。

2) 総合科目以外の担当教育概要

- (1)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）：鈴木がグループ別セミナー（22時間）を担当し、佐々木が4時間の講義を担当した。
- (2)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必修）：佐々木が2クール（4週間）を担当した。
- (3)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）：佐々木が国外研修のグループ研修指導を担当した。

3. 研究活動の概要

- 1) 佐々木は、文部科学省科学研究費助成事業（若手研究(B)）による研究課題「看護学生におけるレジリエンスと脳腸相関との関連性について」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。
- 2) 佐々木は、看護学部教員共同研究費による研究課題「術後急性期患者への看護実践モデルの開発－コア概念の抽出と概念枠組みの明確化－」（研究代表者：長谷川直人）の共同研究者として参加し、同研究を実施した。
- 3) 佐々木は、厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」（研究代表者：小谷和彦）に、研究協力者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

- 1) 鈴木は、自治医科大学看護学部「自治医科大学看護学ジャーナル」の投稿論文の査読を行った。
- 2) 鈴木、佐々木は、自治医科大学看護師特定行為研修センターの令和4年度看護師特定行為研修指導者講習会において、タスクフォースを務めた。
- 3) 佐々木は、日本ルーラルナース学会事務局員を務めた。

大学院看護学研究科 教育の概要

実践看護学分野 「小児看護学領域」

教授 横山 由美

1. スタッフ紹介

教授 横山 由美

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

令和2年度は、博士前期課程では、専門看護師過程2年次1名の教育を行った。博士後期課程では3年次2名、2年次1名の教育を行った。

博士前期課程

1) 小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために、成長発達、生活、社会的・歴史的側面から、主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。履修者がいなく開講しなかった。

2) 小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。履修者がいなく開講しなかった。

3) 小児看護学講義Ⅲ（1年次後期2単位）

ケアシステム、ケアマネジメント、社会資源の活用などを踏まえて、小児看護専門職として必要な機能（実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育・倫理的問題への対処）の側面から、小児看護の現状を分析し、小児看護専門看護職の課題及び役割について理解する。履修者がいなく開講しなかった。

4) 小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し、看護の役割・活動について学ぶ。履修者がいなく開講しなかった。

5) 小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。履修者がいなく開講しなかった。

6) 小児看護学演習Ⅲ（2年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について検討する。履修者がいなく開講しなかった。

7) 小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。履修者がいなく開講しなかった。

8) 小児看護専門看護実習Ⅰ（2年次後期8単位）

小児看護を実践し課題を探究することにより、高度医療および地域において医療が展開される場において、小児看護専門職としての看護実践能力を発展させる。また、小児看護専門看護師として実践できる能力を修得し、発展させる。履修者がいなく開講しなかった。

9) 小児看護専門看護実習Ⅱ（2年次後期2単位）

高度医療の場において、発達段階各期の子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについて実践を通して学び、小児看護専門看護師として自立した活動を行うためにそれらを活用する能力を修得する。履修者がいなく開講しなかった。

10) 小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し、改善・改革の方法について明らかにする。履修者がいなく開講しなかった。

11) 実践看護学特別研究（2年次後期6単位）

実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し、修士論文を作成する。履修者がいなく開講しなかった。

博士後期課程

1) 実践看護学特論Ⅱ（1年次前期2単位）

看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論及び方法についての批判的吟味を通し、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を理解する。履修者がいなく開講しなかった。

2) 広域実践看護学演習（1年次後期2単位）

臨地での経験などから得た看護実践の課題について、関連する先行研究をレビューし、批判的に吟味することにより、研究課題を焦点化し研究計画に反映することができる。履修者がいなく開講しなかった。

3) 広域実践看護学特別研究（1～3年前期6単位）

研究計画を立案し、研究活動を展開、博士論文

を作成する。春山が科目責任者として総括し、横山が分担者として2名の学生を担当した。1名は博士論文を作成し、修了した。1名は、医学系倫理審査会で承認を得て、研究を進めている。

4) 広域実践看護学特別研究Ⅰ（1年次通年3単位）

研究課題を設定し、研究計画を立案する。春山が科目責任者として総括し、横山は分担者として1名の学生を担当し、医学系倫理審査会で承認を得た。

5) 広域実践看護学特別研究Ⅱ（2年次通年3単位）

研究活動を展開、博士論文を作成する。春山が科目責任者として総括し、横山は分担者として1名の学生を担当した。医学系倫理審査会で承認を得た後、研究を進めている。

実践看護学分野 「母性看護学領域」

教授 成田 伸

参加者から意見を頂いた。

野井は研究計画書を12月の審査会に提出し、承認され、倫理審査委員会に必要文書を提出した。

1. スタッフ紹介

教授 成田 伸

教授 川野 亜津子

取得資格：看護師，助産師

学歴：自治医科大学看護短期大学卒業，京都大学医療技術短期大学部専攻科助産学専攻修了，筑波大学大学院医科学修士課程医科学専攻修了，修士（医科学），筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程ヒューマン・ケア科学専攻修了，博士（ヒューマン・ケア科学）

職歴：自治医科大学附属病院助産師，東京大学医学部附属病院助産師，筑波大学医学医療系保健医療学域助教，准教授（母性看護学・助産学）

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

1) 博士前期課程専門科目に関する教育概要

令和4年度は，入学した2名に加え，母性看護学講義ⅠⅡの履修を希望した科目等履修生1名に対して，1年次の教育を行った。

1年生の斎藤あゆみ，高橋かをり，講義Ⅰ・Ⅱについては科目等履修生横山清香に対して，前期に川野が科目責任者の母性看護学講義Ⅰを，成田が科目責任者の演習Ⅰ，Ⅱ，後期に成田が科目責任者の講義Ⅱ，角川が科目責任者の講義Ⅲ，演習Ⅲ，川野が科目責任者の演習Ⅳを実施し，非常勤講師の協力を得た。うち，講義Ⅰ・Ⅱについては科目等履修生も出席した。また，適宜セミナーを開催し，各院生の研究課題の検討を行った。

2) 博士後期課程の教育概要

成田は，博士後期課程については，広域実践看護学特論Ⅰの科目担当者として講義を展開した。

成田は，博士後期長期履修4年目の出井陽子，長期履修3年目の野井恵加について研究指導を行った。出井，野井共に研究テーマに関連する文献検索を進めた。出井は第1回合同研究セミナーにおいて，野井は第4回合同研究セミナーにおいて，研究計画に関わるプレゼンテーションを行い，

実践看護学分野
「クリティカルケア看護学領域」

准教授 佐藤 幹代

1. スタッフの紹介

准教授 佐藤 幹代

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

本年度は、在籍する学生はおらず開講する科目はなかった。

実践看護学分野 「精神看護学領域」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教 授 永井 優子

教 授 半澤 節子

2. 教育の概要

実践看護学分野「精神看護学領域」では、人々の生涯にわたる精神的健康の保持増進から重度の精神障害者の支援まで幅広く担うことのできる専門職として、高度な知識と技術を持ち所属する組織において必要な役割を果たすことができる人材育成を目指している。同時に、こうした人材は人々の精神的健康を取り巻く社会文化的環境の変化をとらえながら、必要な改善や改革を提案できる人材となることを目指している。

履修モデルには、標準履修モデルとともに、専門看護師をめざす場合の履修モデルを提示し、標準履修モデルの学生は共通科目8単位、専門科目12単位、特別演習4単位と特別研究6単位により合計30単位以上の履修を求めている。一方、専門看護師をめざす場合の履修モデルの学生は共通科目14単位、専門科目14単位、専門看護実習10単位と課題研究4単位による合計42単位以上の履修を求めている。

令和4年度は実践看護学分野「精神看護学領域」の講義・演習科目を履修登録した院生はいなかった。

実践看護学分野 「がん看護学領域」

教授 小原 泉

1. スタッフの紹介

教授 小原 泉

准教授 内堀 真弓

2. 大学院教育の概要

がん看護学の履修者は2年生が1名であった。

がん看護学では、わが国のがん医療の変化に対応した専門的な知識や看護実践方法を教授し、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を実現する高度な看護実践を提供できる人材を育成することを目指した教育活動を行っている。

2022年度の開講科目は「がん看護専門看護実習Ⅰ」（2年次前学期，6単位），「がん看護専門看護実習Ⅱ」（2年次後学期，4単位），「がん看護学課題研究」（2年次後学期，4単位）で，小原ならびに内堀が担当した。

「がん看護専門看護実習Ⅰ」の到達目標は，がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟，外来など様々な場において，専門看護師の役割・機能の実際，および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して，創造的ながん看護ケア開発の方法を理解することである。緩和ケア専門実習，CNS役割開発実習，上級実践がん看護実習で構成され，がん看護専門看護師に求められる系統的かつ包括的な実践能力を育成するための臨地実習を行った。

「がん看護専門看護実習Ⅱ」の到達目標は，がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して，複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にキュアとケアを統合した看護ケア開発について理解することである。外来および病棟でがん化学療法を受け，症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し，医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともに，医師およびがん看護専門看護師のスーパーバイズの下で，患者の有害事象や苦痛の緩和に対する医学的な臨床判断の方法を理解し，キュアとケアを統合した看護援助を探究した。

「がん看護学課題研究」の到達目標は，講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実

践上の課題について，取得を目指すがん看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い，研究指導を受けて修士論文を作成することである。「終末期がん患者の療養の場の意思決定支援に関する看護実践」をテーマとした修士論文の作成を指導した。

地域看護管理学分野 「老年看護管理学領域」

教授 上野 まり

1. スタッフの紹介

教授 上野 まり

教授 浜端 賢次

准教授 川上 勝

2. 大学院教育の概要

老年看護管理学の教育活動は、高齢者の特徴や発達課題などを踏まえ、倫理的課題を含めた老年看護管理の課題について追究する。そして高齢者の生活や保健行動の視点から、心身機能の保持・回復に関わる専門的ケア提供体制や健康生活への支援などを検討できる人材の育成を目指している。

2022年度は、老年看護管理学の専門科目を履修した院生は2名、科目履修生が1名であった。

【老年看護管理学講義Ⅰ】

前期2単位の必修科目として、1名の科目履修生と3名の教員で15コマを分担し、高齢者看護管理について基礎的な学修を進めた。科目履修生のための履修であったので、履修生がこれまでの看護実践経験から、どのような高齢者看護管理に関する研究課題を見出すことができるかということを意図して3名の教員で支援した。

【老年看護管理学方法Ⅱ】

後期2単位の必修科目として1名の院生と2名の教員で15コマを担当した。高齢者の看護管理の課題を施設、地域の両面から文献検討しながらディスカッションし学修を深めた。

【老年看護管理学演習】

4単位の後期必修科目として指導教員を中心に1名の院生が履修した。院生自身の勤務するフィールドにおける高齢者に対する看護管理の実践を振り返り、看護管理及び実践上の課題について教員2名とディスカッションしながら学修を深めた。

【老年看護管理学特別演習】

前期4単位の必修科目として、2名の院生に対し2名の教員が対応した。それぞれの研究課題をより明確化し、課題解決のための研究方法を具体

的に説明し、表現するための能力向上を目指し、個別指導を中心に実施した。

【老年看護管理学特別研究】

後期6単位の必修科目として、2名の院生に対し、2名の教員が対応した。それぞれの院生が取り組む研究課題に関して、老年看護管理学の視点から課題解決に向け新たな知見を明確化することを目指し、個別指導を中心に実施し、最終的には修士論文の作成を到達目標として院生と教員が共に取り組んだ。

3. その他

次年度の院生の受け入れのための準備を行った。

地域看護管理学分野 「地域看護管理学領域」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

准教授 島田 裕子

2. 教育の概要

地域看護管理学の履修者は、1年生が2名、2年生が3名で（2年目1名、3年目2名）、5名とも長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。令和4年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位、春山・塚本・島田担当）、「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位、春山・島田担当）、「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位、塚本・春山・非常勤講師）、「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位、春山・塚本・島田担当）、「地域看護管理学演習」（4単位、塚本・春山担当）、「地域看護管理学特別演習」（4単位、春山・塚本・島田）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に関係する主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生2名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は、実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の

展開方法、施策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。1年生2名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は、山間へき地や離島、豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は、地域特性とヘルスニーズの分析から、地域における看護提供体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生2名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、栃木県内の2か所の健康福祉センター（保健所）及び1市において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生1名が履修した。文献検討、並びに、学生自身の研究テーマと関連させて、栃木県内のへき地をカバーする病院1カ所およびその周辺地域においてフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を精練した。

【地域看護管理学特別研究(地域看護管理学領域)】

春山が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「災害に備えた平時の体制整備に関する市町村保健師の活動」であった。

地域看護管理学分野 「診療看護技術管理学領域」

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

教授 里光 やよい（2023年3月31日退職）

准教授 長谷川 直人

2. 大学院教育の概要

診療看護技術管理学の履修者は、2年生3名（うち2名は長期履修制度利用者、うち1名は前学期休学）、1年生2名（うち1名は長期履修制度利用者）であった。

診療看護技術管理学では、地域医療や高度医療の現場における安全・安心、かつ効果的な特定行為を含む診療看護技術の提供ならびに提供体制の構築を目的としている。具体的には、診療看護技術の効果的な提供体制のための改善・改革の課題抽出や、特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術の教授を行い、安全かつ効果的な医療・看護提供体制構築のための管理的・指導的役割を担う人材を育成している。

1) 診療看護技術管理学に関する教育概要

(1)診療看護技術管理学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは、診療看護技術の概念および特徴について文献検討を行いつつ、診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を理解することを到達目標とした。1年生2名が履修した。村上と里光が担当した。

(2)診療看護技術管理学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱでは、保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、継続教育を視野に入れた診療看護技術の教育体制のあり方とその実際を理解することを到達目標とした。1年生2名が履修した。村上と里光が担当した。

(3)診療看護技術管理方法Ⅰ（1・2年次前期2単位：必須）

方法Ⅰでは、様々な医療現場における診療看護

技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員としての看護専門職としての役割について実践例や先行研究の知見から検討することを到達目標とした。1年生2名が履修した。院生の経験や興味関心の高い文献の文献検討、主に研究設計の検討を実施した。村上、長谷川が担当した。
(4)診療看護技術管理方法Ⅱ（1・2年次後期2単位：必修）

方法Ⅱでは、診療看護技術の安全な提供のために、地域、組織特性を踏まえて組織内の関係職種との連携・協働体性の構築方法や診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討することを到達目標とした。1年生2名が履修した。授業目標に関連して授業設計を立て、特定行為研修の1科目の演習・実習の一部を実施した。里光、村上が担当した。

(5)診療看護技術管理学演習（1・2年次後期4単位：必修）

演習では、安全かつ安心な診療看護技術の開発・改善、提供方法や、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、実践・評価を行い、診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探求することを到達目標とした。1年生2名が履修した。文献検討、ならびに学生自身の研究テーマと関連させて、ゼミと個別指導により、研究計画を洗練した。村上、里光、長谷川が担当した。

(6)診療看護技術管理学特別演習（2年次前期4単位：必須）

特別演習では、看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ、看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善、チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための研究課題の明確化とその研究課題を解決するための研究方法を検討することを到達目標とした。2年生2名が履修した。研究倫理審査申請書を作成できるよう、ゼミと個別指導により、研究計画書を検討した。村上、里光、長谷川が担当した。

(7)診療看護技術管理学演習特別研究（2年次後期6単位：必修）

特別研究では、看護職の役割拡大に伴うスキルの開発・改善や、安全・安心な医療提供システム

づくりに寄与することのできる研究課題を探究し、研究活動を展開し、修士論文を作成することを到達目標とした。病院、会議施設、在宅などにおける人々への看護技術提供について、それぞれの場の特性を踏まえた高い看護技術の開発・改善や看護技術提供システムづくりに取り組む研究課題を探究した。村上が担当し、2年生3名が履修した。

共通科目

大学院看護学研究科幹事長 横山 由美

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは、高度看護実践力の育成強化を中心に編成し、共通科目と専門科目を置いている。共通科目は、高度実践看護職として機能するために、看護学領域を超えて共通に必要な実践、教育、相談、研究、倫理、管理、並びに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で、必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみで、専門看護師教育課程共通科目の「看護管理論」「看護政策論」（各1単位）に相当する。

選択科目は全10科目（原則各2単位）である。専門看護師を目指す場合は、選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目、加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」のうち3科目以上を選択して、計12単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」「Academic Writing & Oral Presentation」（この科目のみ1単位、1～2年次）の4科目がある。標準モデルでの履修の場合は、選択科目の指定はなく、計8単位以上を取得する。

1. 必修科目（ ）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、医療チーム内の調整や関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働、制度改革への高度実践看護職の働きかけについて、担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数6名。

2. 選択科目（ ）内は科目責任者を示す

【病態生理学特論】（倉科智行准教授）

到達目標は、日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデ

ンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することである。対面形式で、症候からみた病態生理について相互に学習成果を発表し質疑応答形式で理解を深めた。非常勤講師による特別講義で運動器および生殖機能関連の理解を深めた。また事例演習を通して実際の看護判断に必要な病態の捉え方を学習した。履修学生数3名（科目等履修生1名含む）。

【フィジカルアセスメント特論】（村上礼子教授）

到達目標は、高度実践看護職として複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することである。Web教材を活用した遠隔授業を展開したあと、事例検討や模擬患者演習などシミュレーション学習を取り入れ、フィジカルイグザミネーションと複雑な健康問題に対する臨床判断プロセスを磨く技能について担当教員1名と非常勤講師2名も加わり教授した。履修学生数4名（科目等履修生1名含む）。

【臨床薬理学特論】（大塚公一郎教授）

到達目標は、薬剤の人体における作用機序、体内動態、有益な効果と有害な効果、薬剤使用の判断を理解し、投与後の患者のモニタリング、患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることである。臨床薬理学の基礎知識と看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整に関する知識と技術を担当教員2名と非常勤講師13名で教授した。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、講義に関してはe-learningで教授し、事例検討による演習については、テーマに関するレポート課題を、学生にMoodleをとおして提出させ指導を行った。履修学生数3名（科目等履修生1名含む）。

【看護実践研究論】（半澤節子教授）

到達目標は、看護学分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法を理解することである。文献検討および研究論文のクリティーク、各種研究方法について院生の研究課題に基づいて指導し、研究計画作成に向けた基礎的知識の修得を図る。今年度は講義およ

び院生とのディスカッションについてe-learningを用いて行った。履修学生数2名（科目等履修生1名含む）。

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し、コンサルテーションの実際について理解することである。担当教員1名で8回、非常勤講師2名で教授した。なお、グループコンサルテーション演習（集中3回）は、修了生と本看護学部助教の協力を得て、担当教員1名と非常勤講師1名（遠隔）で最少催行人数4人で実施した。履修学生数3名（科目等履修生1名含む）。

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は、保健医療および福祉の現場における倫理的課題と看護職の倫理的行動、および看護場面において複雑な判断を要する倫理的課題の調整・提言等、看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的責任、倫理的分析と倫理的意思決定、ケアの倫理、保健医療専門職に対する倫理教育、臨床における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生2名を含む）。

【看護継続教育論】（塚本友栄教授）

到達目標は、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして、さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策、基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際に沿った教育環境づくりの方策、教育的かかわりに関する理論などについて担当教員3名で教授した。履修学生数4名（科目等履修生3名含む）。

【地域医療論】（上野まり教授）

到達目標は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することである。地域ニーズのとらえ方、ニーズに即した医療の提供方法、地域の保健医療福祉施設の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について担当教員3名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数4名（科目等

履修生1名含む）。

【地域調査法】（春山早苗教授）

到達目標は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法、収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解することである。地域において効果的かつ効率的な看護・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題・健康ニーズを把握するための調査方法を講義と演習をとって担当教員3名と非常勤講師1名で教授した。履修学生数は科目等履修生1名を含む3名。

【Academic Writing & Oral Presentation】（成田伸教授）

到達目標は、英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得することである。事前課題を提示し、課題を仕上げて参加することを促し、講義時間内では双方向のやり取りをめざしている。本年度は、履修登録する学生がおらず開講しなかった。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 上野 まり	教授 大塚公一郎
教授 小原 泉	教授 里光やよい
教授 塚本 友栄	教授 永井 優子
教授 成田 伸	教授 浜端 賢次
教授 春山 早苗	教授 半澤 節子
教授 村上 礼子	教授 横山 由美
准教授 角川 志穂	准教授 長谷川直人
講師 鹿野 浩子	講師 関山 友子

2. 教育の概要

博士後期課程の学生は、1年生1名、2年生2名、3年生8名（3年目2名、4年目1名、5年目2名、6年目1名、7年目1名）で、全員が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学特論Ⅲ」（2単位、選択）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究」（6単位、必修、1～3年次）であった。また、令和2年度カリキュラムから、学生の学修のしやすさを考慮して「広域実践看護学特別研究」を「広域実践看護学特別研究Ⅰ」（3単位、必修、1年次～看護学研究計画審査会にて研究計画書の承認を得るまで）と「広域実践看護学特別研究Ⅱ」（3単位、必修、看護学研究計画審査会にて研究計画書の承認後～3年次）の2科目とした。専門関連科目の開講科目は「異文化精神医療論」（2単位、選択）、「言語学研究論」（1単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム・看護管理研究法）春山・成田担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施

策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生1名及び科目等履修生3名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅲ（メンタルヘルスケア研究法）半澤・永井担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、国内外における精神保健医療福祉の歴史や現状を踏まえて、メンタルヘルスケアに関わる看護実践の開発につながる研究課題及び仮説の設定、研究方法を探究する。1年生1名が履修した。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指す。

1年生1名が、システムに関するテーマについては＜ヘルスケアシステム・看護管理＞（春山担当）を、看護ケアに関するテーマについては＜メンタルヘルスケア＞（半澤担当）を選択したが単位修得に至らなかった。

【広域実践看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ（旧カリ 広域実践看護学特別研究）】

研究指導教員を表に示す。

広域実践看護学特別研究Ⅰを3年生2名（3年目1名、4年目1名）が単位修得した。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月、9月、11月、1月に開催予定であったが、1月はプレゼンテーションをする学生がおらず、開催しなかった。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

1名が学位論文審査に合格し、博士論文のテーマは「在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処置の意思決定にかかわる経験」であった。

【異文化精神医療論 大塚・鹿野担当】

本科目では、講義や演習を通して、異文化精神

医療に関する研究構想へ繋げるための基本的知識、精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究を教授した。さらに、人文・社会科学などの隣接科学における最近の異文化研究の知見や異文化コミュニケーションにおける言語の役割についても学修した。履修学生はいなかった。

【言語学研究論 大塚・鹿野担当】

本科目では、言語学研究の最新の知見から、英語母語話者がどのように物事を捉え、文章で表現しているのか、また意味論、日英語対照研究、比較文化研究について教授した。履修学生はいなかった。

表 研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	春山	未定
2	A	春山	永井・横山
	B	永井	小原・村上
3	A	成田	塚本・半澤
	B	春山	上野・小原
3 4年目	A	横山	成田・半澤
3 5年目	A	成田	村上・横山
	B	春山	永井・小原
3 6年目	A	横山	成田・村上
3 7年目	A	横山	大塚・春山

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2022年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 大塚公一郎：コロナ禍で先鋭化した外国人マイノリティに対する精神医療，メンタルヘルス支援の問題点と課題．日本社会精神医学会雑誌 31：292-297, 2022
- 2) 鹿野浩子：否定文に対するその‘Yeah’って反論なの？－暗い話について話す英語話者の会話から－，御殿山語用論研究論集，第8号：1-14, 2022.
- 3) Hatano Y, Sawayama N, Miyashita H, Kurashina T, Okada K, Takahashi M, Matsumoto M, Hoshide S, Sasaki T, Nagashima S, Ebihara K, Mori H, Kario K, Ishibashi S. :Sex-specific Association of Primary Aldosteronism With Visceral Adiposity. J Endocr Soc, 25:bvac098,2022.
- 4) Kawabata N, Okada K, Ando A, Kurashina T, Takahashi M, Wakabayashi T, Nagata D, Kusano E, Mogi S, Sato T, Ishikawa S, Ishibashi S. :Comparison of the effects of frequent versus conventional nutritional interventions in patients with type 2 diabetes mellitus: A randomized, controlled trial. J Diabetes Investig, 13:271-279,2022.
- 5) Kawabata N, Okada K, Ando A, Kurashina T, Takahashi M, Wakabayashi T, Nagata D, Arakawa Y, Haga A, Kogure A, Chiba M, Mogi S, Ishikawa S, Ishibashi S. :Dietitian-supported dietary intervention leads to favorable dietary changes in patients with type 2 diabetes: A randomized controlled trial. J Diabetes Investig, 13:1963-1970, 2022.
- 6) 櫻井百恵，倉科智行，岡田健太，海老原健，石橋 俊：甲状腺中毒症状を契機に診断されたGH・TSH同時産生下垂体腺腫の1例．内科,130:316-319, 2022.
- 7) Tada H, Kurashina T, Ogura M, Takegami M, Miyamoto Y, Arai H, Harada-Shiba M, Ishibashi S. :Prospective Registry Study of Primary Dyslipidemia (PROLIPID): Rationale and Study Design. J Atheroscler Thromb, 29:953-969,2022.
- 8) 八木街子[佐伯]，鈴木美津枝，鈴木義彦，倉科智行，白石裕子，大塚公一郎，村上礼子：特

定行為に係る看護師の研修における共通科目での実習設計 特定行為基礎実習Ⅰについて．自治医科大学紀要，44:53-59, 2022.

(2) 学会発表

- 1) 大塚公一郎：対象aからみた生体腎移植ドナーのメラニコリーと自殺．第45回日本精神病理学会，京都，2022年9月17日（プログラム・抄録集p.72）
- 2) 大塚公一郎：社会恐怖とうつが問題になった外国人男性の一例．ラカン協会主催 第一回臨床研究会．2022年10月23日オンライン開催
- 3) Atsushi Hirao, Shiho Sumikawa, Hiroko Shikano, Yoshikazu Nagao: Does the moving image of a cow possess the same effects as animal assisted-therapy? 第20回自治医大シンポジウム，栃木県．2022年9月16日
- 4) Goto, Risa, Shikano Hiroko, Yuyama Misugi, and Honda Yoshika. How Do Questions Facilitate Empathic Communication? A Case Study of Japanese Nursing Students' Confirmatory Responses to Simulated Patients' Talks. World Academy of Nursing Science The 7th International Nursing Research Conference of WANS, Taiwan, 2022.10.18.
- 5) Shikano Hiroko and Watanabe Kenji. 2022. What is the significance of repeating the same points? Home-visiting nurses' narrations about deceased ALS patients. 6th International Online Conference on Nursing and Midwifery, Mongolia, 2022.5.12.
- 6) 武井暁一，山岡桂子，櫻井百恵，岡 聖典，近藤泰之，武井祥子，若林徹治，倉科智行，岡田健太，海老原健，石橋 俊：無痛性甲状腺炎が疑われたTRAb陰性バセドウ病を合併した急性発症1型糖尿病の1例．第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，完全WEB開催．2022年1月22日（糖尿病65(7):391,2022.）
- 7) 澁谷浩史，武井祥子，倉科智行，永島秀一，岡崎啓明，岡田健太，海老原健，石橋 俊：関節リウマチ治療中に亜急性甲状腺炎を繰り返した一例．第65回日本甲状腺学会学術集会．大阪．2022年11月2日．（日本内分泌学会雑誌 98(5):1305,2023）

基礎看護学

(1) 著書

- 1) 石井容子：7章 地域・在宅緩和ケア，ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第3版（宮下光令編），メディカ出版（大阪）254-278,2022.
- 2) 石井容子，横山孝子：7章 地域・在宅緩和ケア（訪問看護での緩和ケア）AR動画，ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア（宮下光令編），メディカ出版（大阪），2022.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) Yusuke Kajimoto, Takashi Shibutani, Shoji Nagao, Satoshi Yamaguchi, Shiro Suzuki, Masahiko Mori, Hirofumi Tsubouchi, Kohshiro Nakao, Anri Azuma, Takahiro Koyanagi, **Izumi Kohara**, Shuko Tamaki, Midori Yabuki, Lida Teng, Kazunori Honda and Ataru Igarashi: Validity of the COmprehensive Score for Financial Toxicity (COST) in patients with gynecologic cancer. International Journal of Gynecological Cancer, 32(9), 2022.
- 2) 大串未来，小原 泉：終末期にある造血器腫瘍患者のその人らしさを支える看護。自治医科大学看護学ジャーナル，19；25-36, 2021.

(3) 学会発表

- 1) **Izumi Kohara**, Noriko Fujiwara, Hiroko Nakahama, Kojiro Shimozuma, Hiroyuki Fujiwara, Keiichi Fujiwara, and Mitsuaki Suzuki. EVALUATION OF THE JOURNAL CLUB HOSTED BY THE RESEARCH NURSE COMMITTEE IN A GYNECOLOGIC CANCER CLINICAL TRIALS GROUP, International Gynecologic Cancer Society 2022 Annual Group Meeting, in New York City, USA. Sep 29 -Oct 1, (Abstracts: #579,2022)
- 2) Noriko Fujiwara, **Izumi Kohara**, Mayumi Yamamoto, Shuko Tamaki, Midori Yabuki, RN, Hiroko Nakahama, Chiemi Kojima, Akiko Nosaki, Shimon Tashiro, Kenichi Yoshimura, Keiichi Fujiwara: Development of Learning Program to Nurses Supporting Patients' Decision Making in Cancer Clinical Trials;

The Results of a 2nd-Pilot Study. IACRN International Association of Clinical Research Nursing (IACRN) 14th Annual Conference, in Atlanta, GA, USA. Oct 17-18, (Abstract #34 (poster session), 2022)

- 3) Kazunori Honda, Tsubouchi Hirofumi, Masahiko Mori, Shiro Suzuki, Kohshiro Nakao, Anri Azuma, Shoji Nagao, Takashi Shibutani, Takahiro Koyanagi, **Izumi Kohara**, Shuko Tamaki, Midori Yabuki, Lida Teng, Yusuke Kajimoto, Ataru Igarashi: Association of Financial Toxicity with Quality-of-Life in patients with gynecologic cancer. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都。2022年2月17日～19日。（JSMO2022）
- 4) 内堀真弓，野々村ゆかり，大槻奈緒子，相島美彌，福井小紀子：膝関節術後患者のフレイル予防に向けたIoTデバイスの活用を探索する基礎的研究。日本看護科学学会，広島県。2022年12月3日-4日。
- 5) 野々村ゆかり，内堀真弓，大槻奈緒子，相島美彌，福井小紀子：人工膝関節置換術を受けた患者のフレイル予防に対するIoT技術の活用－測定方法の妥当性と測定結果のフィードバック効果の探索的検討－。日本看護科学学会，広島県。2022年12月3日-4日。
- 6) 西木戸修，島崎寛将，石井容子，金子 健：シンポジウム14痛みの評価～現状を評価し、前に進む～。第27回日本緩和医療学会学術大会，神戸。2022年7月1日～2日。（JSPM；S.79, 2022）
- 7) 伊藤奈央，重野朋子，石井容子，松村優子，佐藤あづさ，佐々木弘子，青山真帆，宮下光令：交流集会6緩和ケアにおける患者報告型アウトカムの活用を考える～IPOS導入の工夫と課題～。第27回日本緩和医療学会学術大会，神戸。2022年7月1日～2日。（JSPM；S.166, 2022）
- 8) **Misugi Yuyama.**, Eiji Satoh., Tatsuya Suzuki., and Yasuhiro Nohara: A Study of Comfortable Communities to Live in Based on Characteristics of Injuries and Illnesses and Medical Institutions Used by Elderly Patients Receiving Hospital Discharge Planning, The 53rd APACPH CONFERENCE 2022 ID

number APACPH-P015, Manila, Philippines, 22-23 September, (2022)

- 9) 宮沢玲子, 亀田美智子, 河野邊香, 竹野井さとみ, 高久美子, 里光やよい, 島田裕子: A大学病院の看護師が地域実践研修を経験することによる帰院後の看護実践.日本ルーラルナース学会, 長崎, 2022.9.17.日本ルーラルナース学会第17回学術集会プログラム・抄録集; p40, 2022

(4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 井上育子, 小原 泉, 里光やよい, 内堀真弓, 湯山美杉, 石井容子, 甲賀優貴, 福田順子, 弘田智香: 看護系学生のコミュニケーション能力の現状および能力向上に向けた取り組みに関する文献検討. 第20回自治医科大学シンポジウム, 栃木. 2022年9月9日. (第20回自治医科大学シンポジウム抄録集; 54.2022)

地域看護学

(1) 著書

- 1) 春山早苗：第3章 地域の健康危機管理を行う公衆衛生看護活動 2 健康危機：アウトブレイク、パンデミック、公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動 I 第2版（岡本玲子，荒木田美香子，麻原きよみ，佐伯和子 編集）。医歯薬出版（東京），122-142, 2022.
- 2) 春山早苗：第7章 保健医療福祉分野における制度・政策と動向。保健学講座第5巻 保健医療福祉行政論（野村陽子，加藤典子 編集）。メヂカルフレンド社（東京），175-208, 2022.
- 3) 春山早苗：第1章 公衆衛生看護学概論 第II節 公衆衛生看護の歴史 第2項～第3項。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 総論（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），32-105, 2022.
- 4) 春山早苗：第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第IV節 地域ケア体制づくり 第1項～第3項1)。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 総論（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），278-304, 2022.
- 5) 市川定子：第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第IV節 地域ケア体制づくり 第4項。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 総論（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），309-318, 2022.
- 6) 春山早苗：第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第IV節 感染症保健福祉活動 第1項～第5項。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 各論1（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），307-350, 2022.
- 7) 春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 各論2（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），138-152, 2022.

- 8) 塩ノ谷朱美，春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 各論2（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），174-182, 2022.
- 9) 青木さざ里：第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動 4) 離島における保健師活動の実際：小規模離島町村における活動。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 各論2（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），164-174, 2022.
- 10) 春山早苗：第3章 公衆衛生看護管理活動論 第II節 地域の健康危機に対する活動 第4項 健康危機の種類に応じた保健活動 2) 感染症健康危機管理。最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 各論2（宮邨美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）。日本看護協会出版会（東京），248-259, 2022.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 江角伸吾，浅田義和，小谷和彦，田村須賀子，由田克士，中田由夫，大神あゆみ，田中和美，関山友子，春山早苗。特定保健指導における情報通信技術(ICT)の活用のための要件。日本糖尿病情報学会誌，20；55-62, 2022.
- 2) 村上礼子，春山早苗，江角伸吾，小谷和彦。へき地診療所における特定行為研修修了看護師の活動に対する期待。自治医科大学看護学ジャーナル，19；3-12, 2022.
- 3) 青木さざ里：島で暮らし続けるために。日本ルーラルナーシング学会誌，17；37-39, 2022

(3) 学会発表

- 1) 雨宮有子，吉川悦子，島田裕子，井口 理，江角伸吾，石橋みゆき，奥田博子，春山早苗：COVID-19 対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 1：保健所での活用と方法と留意点。第10回日本公衆衛生看護学会学術集会，大阪（オンライン開催）。2022年1月4日～2022年1月31日（第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演

- 集, 112, 2022)
- 2) 石橋みゆき, 春山早苗, 奥田博子, 吉川悦子, 雨宮有子, 井口 理, 島田裕子, 江角伸吾: COVID-19 対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 2: 本庁でのマネジメント. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪 (オンライン開催). 2022年1月4日~2022年1月31日 (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演集, 113, 2022)
 - 3) 春山早苗, 吉川悦子, 石橋美幸, 雨宮有子, 奥田博子, 井口 理, 島田裕子, 江角伸吾: COVID-19対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 3: 外部委託等活用ガイドライン. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会, 大阪 (オンライン開催). 2022年1月4日~2022年1月31日 (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演集, 113, 2022)
 - 4) 島田裕子, 舟橋千尋, 江角伸吾, 青木さぎ里, 塚本友栄, 春山早苗: 地区における高齢者サロンの立ち上げに関連する要素. 日本地域看護学会第25回学術集会, 富山 (ハイブリッド開催), オンデマンド配信 (2022年8月27日~2022年9月16日). (日本地域看護学会第25回学術集会講演集, 224, 2022)
 - 5) 春山早苗, 安齋由貴子, 石田千絵, 岩村龍子, 奥田博子, 小寺さやか, 島田裕子: ウィズコロナ・ポストコロナ時代の地域と学校・職域との連携~人々の健康と生活を護る地域看護のあり方とは~. 日本地域看護学会第25回学術集会ワークショップ2, 富山 (ハイブリッド開催), 2022年8月27日. (日本地域看護学会第25回学術集会講演集, 127, 2022)
 - 6) 宮沢玲子, 亀田美智子, 河野邊香, 竹野井さとみ, 高久美子, 里光やよい, 島田裕子: A大学病院の看護師が地域実践研修を経験することによる帰院後の看護実践. 日本ルーラルナース学会第17回学術集会, 長崎 (WEB開催). 2022年9月18日-2022年9月30日. (日本ルーラルナース学会第17回学術集会プログラム・抄録集, 40, 2022)
 - 7) 青木さぎ里, 江角伸吾, 塚本友栄, 春山早苗, 島田裕子: へき地診療所看護師が看護活動を展開する上で感じる問題・課題. 日本ルーラルナース学会第17回学術集会, 長崎 (WEB開催). 2022年9月18日-2022年9月30日. (日本ルーラルナース学会第17回学術集会プログラム・抄録集, 47, 2022)
 - 8) 佐々木彩加, 村上礼子, 春山早苗, 小谷和彦: へき地を含めた地域医療におけるICTを用いた看護実践の効果と課題-看護師2名の事例から-. 日本ルーラルナース学会第17回学術集会, 長崎 (WEB開催). 2022年9月18日-2022年9月30日. (日本ルーラルナース学会第17回学術集会プログラム・抄録集, 50, 2022)
 - 9) 永井優子, 上野まり, 青木さぎ里, 路川達阿起, 北田志郎, 駸駸浩子: ルーラルエリアにおける「抑うつ状態にある人の看護」実践者の研修について. 日本ルーラルナース学会第17回学術集会 交流集会1, 日本ルーラルナース学会第17回学術集会, 長崎 (WEB開催). 2022年9月18日-2022年9月30日. (日本ルーラルナース学会第17回学術集会プログラム・抄録集, 74, 2022)
 - 10) 村嶋幸代, 春山早苗, 田口敦子, 赤塚永輝: これからの保健師活動とDX (デジタル・トランスフォーメーション). 第81回日本公衆衛生学会総会 自由集会, 山梨, 2022年10月7日. (第81回日本公衆衛生学会総会抄録集, 30, 2022)
 - 11) 太田あゆ美, 春山早苗: 企画段階における統括保健師が配置されていない小規模町村の部署横断的な保健師の活動プロセス. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島 (ハイブリッド開催), 2022年12月3日. (第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 024-2, 2022)
 - 12) 橋本志乃, 村嶋幸代, 田口敦子, 春山早苗: 保健活動におけるICT活用の先駆的自治体の現状と課題及び成果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島 (ハイブリッド開催), 2022年12月3日. (第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 024-3, 2022)
 - 13) 島田裕子, 江角伸吾, 春山早苗: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための演習教材を用いたWEB研修方法の検証. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会, 宮城 (ハイブリッド開催), オンデマンド配信 (2022年12月17日~2023年1月31日). (第11回日本公衆衛生看護

- 学会学術集会講演集, 134, 2022)
- 14) 舟橋千尋, 江角伸吾, 大神あゆみ, 関山友子, 田村須賀子, 春山早苗: 自己管理行動の継続支援を意図したICTツール活用保健指導プログラムの効果の検討. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会, 宮城 (ハイブリッド開催), オンデマンド配信 (2022年12月17日~2023年1月31日). (第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 219, 2022)
 - 15) 春山早苗, 鳩野洋子, 江角伸吾, 大神あゆみ, 金谷志子, 佐藤紀子, 山縣千開: いまさら聞けない研究倫理 これを知って実践をStep Up! <倫理委員会企画>. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 ワークショップH-1, 宮城 (ハイブリッド開催), 2022年12月17日. (第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 110, 2022)
 - 16) 雨宮有子, 高岡誠子, 奥田博子, 吉川悦子, 井口 理, 春山早苗: IHEATの可能性と発展への課題. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 ワークショップH-2, 宮城 (ハイブリッド開催), 2022年12月17日. (第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 110, 2022)
 - 17) 春山早苗: 公衆衛生看護における健康危機管理の仕組みづくりとマネジメント. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 健康危機管理セミナーC, 宮城 (ハイブリッド開催), 2022年12月18日. (第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 64, 2022)
- (4) その他 (記書・報告書・学会以外での発表等)
- 1) 春山早苗, 安齋由貴子, 牛尾裕子, 奥田博子, 島田裕子, 江角伸吾, 浅田義和, 石谷絵里, 尾島俊之, 宮郷美砂子, 関山友子, 磯村聡子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 令和3年度 総括・分担研究報告書, 1-10, 2022.
 - 2) 江角伸吾, 春山早苗, 奥田博子, 浅田義和, 尾島俊之, 宮郷美砂子: 自己学習のためのeラーニング教材の精練-市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材-. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」令和3年度 総括・分担研究報告書, 11-18, 2022.
 - 3) 春山早苗, 島田裕子, 江角伸吾, 石田絵里, 関山友子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その1-WEB研修-. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」令和3年度 総括・分担研究報告書, 19-69, 2022.
 - 4) 春山早苗, 島田裕子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その3-既存の演習教材 (避難所HUG) を活用した集合研修-. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」令和3年度 総括・分担研究報告書, 81-94, 2022.
 - 5) 春山早苗, 島田裕子, 江角伸吾, 石田絵里, 関山友子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その1-WEB研修-. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」令和3年度 総括・分担研究報告書, 19-69, 2022.
 - 6) 島田裕子, 春山早苗, 江角伸吾, 安齋由貴子, 牛尾裕子, 奥田博子, 浅田義和, 井口理, 石谷絵里, 尾島俊之, 宮郷美砂子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材活用マニュアルの作成と精練. 厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」令和3年度 総括・分担研究報告書, 95-173, 2022.
 - 7) 春山早苗, 安齋由貴子, 牛尾裕子, 奥田博子, 島田裕子, 江角伸吾, 浅田義和, 石谷絵里, 尾島俊之, 宮郷美砂子, 関山友子, 磯村聡子: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアル

- ルの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）令和2年度～令和3年度 総合研究報告書, 1-113, 2022.
- 8) 村嶋幸代, **春山早苗**, 田口敦子, 成木弘子, 上原健司, 柴川ゆかり, 橋本志乃: 令和3年度地域保健総合推進事業「ICT活用による保健師活動評価手法開発事業」報告書. 日本公衆衛生協会. 1-35, 2022.
- 9) **春山早苗**, 村上礼子, 佐々木彩加: ICTを用いた看護実践の検討. 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」令和3年度 総括・分担研究報告書, 13-16, 2022.
- 10) **島田裕子**, 朝川美也子, 江連正子, 小林祐樹, 小林 藍, 小林正則, 桑島謙司, 鈴木祐孝, 井上永子, 隅谷サヨ子, 黒須重光, 黒川一巳, 菅井貞雄, **春山早苗**, 塚本友栄, **青木さぎ里**, **江角伸吾**, 横山絢香: 地域包括ケアシステムにおいて協働する住民の地域特性別発掘方略及び生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 19:48, 2022.
- 11) **春山早苗**, 安齋由貴子, 石田千絵, 岩村龍子, 奥田博子, 小寺さやか, **島田裕子**: 保健師教育における健康危機管理の教育方法－指定規則の改正およびコロナ禍の経験を踏まえて－. 日本地域看護学会誌, 25(2):48-56, 2022.
- 12) 佐原康之, 津島志津子, 内田勝彦, **春山早苗**, 尾島俊之: 新春座談会 新型コロナから得た教訓を踏まえた保健所の人材確保, 体制強化. 週刊保健衛生ニュース, 2142:2-27, 2022.
- 13) 河西あかね, 山崎初美, 福原円, 鈴木秀洋, **春山早苗**: コロナ禍における統括保健師の役割－不安と混迷の時代に（座談会）. 地域保健, 53(1):6-25, 2022.
- 14) **青木さぎ里**: 離島保健師のすゝめ. Ocean Newsletter, 516. 6-7, 2022

精神看護学

(1) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 半澤節子：科学研究費助成事業 2021年度研究成果報告書「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」令和4年6月29日，<https://kaken.nii.ac.jp/report/KAKENHI-PROJECT-18K10357/18K10357seika/>

母性看護学

(1) 著書

- 1) 川野亜津子：分娩期の健康問題への看護。母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（渡邊浩子，板倉敦夫，松崎政代編集），株式会社メジカルフレンド社（東京），381-398，2022.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 谷田部典子，小嶋由美，佐藤ひさ代，武藤香子，二宮美由紀，藤川智子，角川志穂，成田伸：予期せぬ妊娠をした女性の実態。栃木県母性衛生学会雑誌，48；10-22，2022.
- 2) 臼井夕奈，川野亜津子，金澤悠喜：第一子誕生直後における妻および夫の感情の変化。日本助産学会誌，61(2)；186-199，2022.
- 3) 杉山木比，金澤悠喜，川野亜津子：暴力をうけた女性を支援する施設で働く看護職の共感疲労に関する研究。日本フォレンジック看護学会誌，8(2)；3-17，2022.
- 4) Atsuko Kawano, Chihoko Sankai：Salivary cortisol, postpartum psychological status and bonding attachment. International Journal of Nursing and Midwifery, 14(2)；30-37，2022.
- 5) Atsuko Kawano, Chihoko Sankai：Research Trends and Perspectives on the Usefulness of Oxytocin as a Biomarker for Postpartum Depression. International Journal of Nursing and Midwifery, 14(4)；55-64，2022.
- 6) Eri Usami, Yuki Kanazawa and Atsuko Kawano：Can psychological status and stress biomarkers in pregnancy predict postpartum depression? 14(4)；81-87，2022.
- 7) 上野知奈，北川真理子：分娩誘発事例を通して分娩進行にともなう否定的反応の分析。栃木県母性衛生学会雑誌，48；23-31，2022.

(3) 学会発表

- 1) Ninomiya,M, Narita,S：Experience of delivery assistance provided by midwives in hospitals and clinics immediately after the Great East Japan Earthquake. 6th International Online Conference on “NURSING IN A CHANGING WORLD” at Darkhan Medeical school, Mongolian National

University of Medical Sciences, Mongolia and Nursing Faculty of KhonKaen University of Thailand（モンゴル医科大学ダルハン校）2022年5月12日

- 2) 武藤香子，成田伸：日本での助産所における分娩管理の実態～安全性に焦点を当てて～。第56回日本分娩監視研究会（川口市），2022年6月26日.
- 3) 北守美佳，成田伸：NICUにおける父子の愛着形成を助けるための看護実践の実際。第24回日本母性看護学会学術集会（大阪，web開催），2022年6月26日.
- 4) 二宮美由紀，成田伸：東日本大震災直後における被災地の医療施設での助産師による分娩介助の実態。第24回日本母性看護学会学術集会（大阪，web開催），2022年6月26日.
- 5) 佐藤由華，石橋俊，茂木さつき，成田伸：尿ケトン体陽性を示した妊娠糖尿病患者の経過と支援～事例を通して考える。第47回栃木県母性衛生学会学術集会（下野市web開催），2022年7月3日.
- 6) 山田陽子，佐藤美佐子，小嶋由美，大下倍代，岩本京子，佐藤ひさ代，藤川智子，武藤香子，成田伸：栃木県助産師会における産後ケアの現状と課題～助産所における産後ケアを中心に～（第2報）。第47回栃木県母性衛生学会学術集会（下野市web開催），2022年7月3日.
- 7) 佐藤由華，石橋俊，茂木さつき，成田伸：尿ケトン体陽性を示した妊娠糖尿病患者の経過とその思い。第38回日本糖尿病・妊娠学会学術集会（東京），2022年11月5日.
- 8) 武藤香子，成田伸：ローリスク産婦における助産所分娩の安全性～院内助産との比較～。第63回日本母性衛生学会総会・学術集会（神戸，遠隔），2022年9月10日.
- 9) 川野亜津子，山海千保子：バイオマーカーを活用した産後鬱ハイリスクのスクリーニングに向けた検討。第63回日本母性衛生学会総会・学術集会（神戸，ハイブリッド開催），2022年9月9日.
- 10) 宇佐美絵里，金澤悠喜，川野亜津子：バイオマーカーを用いた妊娠期からの産後鬱スクリーニングプログラム開発に関する検討。第63回日本母性衛生学会総会・学術集会（神戸，ハイブリッド開催），2022年9月9日.

- 11) Yamazawaki Mai, Kawano Atsuko, Kanazawa Yuki: Midwife Support for Mothers with Autism Spectrum Characteristics During the Perinatal Period. The 7th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (台北, ハイブリッド開催), 2022年10月18日
 - 12) 角川志穂: 共働き夫婦における妻から見た夫の認識と育児の実態. 日本助産学会誌, 35巻3号, 403-404, 2022.
 - 13) 前田一枝, 長坂桂子, 角川志穂, 八巻和子, 津田充子, 中村康香, 深澤友子, 中井愛, 峰博子, 松原まなみ: 母性看護専門看護師の活動実態調査. 第24回日本母性看護学会学術集会, 大阪. 2022年6月26日.
 - 14) 長坂桂子, 角川志穂, 津田充子, 中井愛, 深澤友子, 松原まなみ: コロナ禍における母性看護専門看護師の活動. 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡. 2022年8月20日.
 - 15) 小池久美子, 田中純, 角川志穂: 初産の双胎妊婦が行う家族内役割調整と産後1ヵ月までのサポートの実態. 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸. 2022年9月10日.
 - 16) 阿久井理恵子, 角川志穂: 院内助産所での子ども立ち会い分娩を考えている妊婦と家族への助産師外来での援助の実態. 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸. 2022年9月10日.
- (4) その他 (訳書・報告書・学会以外での発表等)
- 1) 菊地圭子, 望月明見, 成田伸訳: 「出産と誕生」 p.186, 「出産の準備」 p.188-189, 「分娩第1期」 pp.190-191, 「出産」 pp.192-197, 「出産の場」 pp.198-199, 「出産後」 pp.200-201; 鮫島浩, 大月恵理子監訳: Brewer, SS. et al.: The Science of Pregnancy: The Complete Illustrated Guide from Conception to Birth.; みえる生命誕生－受胎・妊娠・出産, 改訂新版. 南江堂, 2022.
 - 2) 川野亜津子: 科学研究費報告書2022, 「産後うつ予防システム確立に向けたバイオマーカーとしてのオキシトシンの有用性」. 基盤研究C, 2018-2022.
 - 3) 川野亜津子: 土浦協同病院学術集会講評報告書2022.
 - 4) 塚田祐子, 成田伸: 助産師・看護師双方が働く母体胎児集中治療室 (MFICU) における看護管理の実態と課題. 自治医科大学附属病院看護部看護研究誌“光”, 46: 31-34, 2022.

小児看護学

(1) 著書

- 1) 田村敦子：第2編第1章「小児の特徴と成長・発達」V発達（小児のもつ力）A反射 B運動の発達 第2章「小児看護における概念と理論」, I自我・認知と思考の発達に関する概念と理論 II母子関係に関する理論 III発達と学習に関する理論 新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論／小児保健（小林京子, 高橋孝雄 編集）第7版第1刷. メヂカルフレンド社（東京）, 104-107,126-141. 2022.
- 2) 田村敦子：第1章 臨床において起こりやすい・直面しやすい状況と看護 III 活動制限が必要な小児と家族への看護, 新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護（小林京子,高橋孝雄 編集）第7版第1刷. メヂカルフレンド社（東京）, 177-182. 2022.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 玉村尚子, 横山由美：保育士・幼稚園教諭の食物アレルギー児やその保護者への対応における課題と支援体制に関する文献検討. 小児保健研究, 81(1) ; 59-67, 2022.
- 2) 横山由美, 熊谷秀規, 石井由美：【令和5年度版 看護師国家試験出題基準 出題基準改定部会委員の真意】(Part2.) 各科目についての考察 小児看護学 改定委員の立場から. 看護展望, 47(9) ; 850-853, 2022.

(3) 学会発表

- 1) 田野井寛子, 横山由美：都道府県アレルギー疾患医療拠点病院の外来におけるアトピー性皮膚炎の患児と養育者への看護実践の現状 専門的な資格取得者としての看護実践, 第59回日本小児アレルギー学会, 沖縄, 2022年11月13日, (日本小児アレルギー学会誌 36巻4号 : 417, 2022)
- 2) 田野井寛子, 横山由美：都道府県アレルギー疾患拠点病院の外来におけるアトピー性皮膚炎の患児と養育者への看護実践の現状, 国立病院総合医学会講演抄録集 76回 : 493, 2022.
- 3) 辻本 健, 横山由美：退院後の小児がん患児をもつ両親のレジリエンスの体験 テキストマイニングによる自由記述の解析から, 第69回日

本小児保健協会学術集会, 三重, 2022年6月18日-30日 (デジタルポスター), (小児保健研究 81巻講演集 : 209, 2022.)

- 4) 玉村尚子, 横山由美：保育所職員を対象とした食物アレルギー研修会についての検討, 第69回日本小児保健協会学術集会, 三重, 2022年6月18日-30日 (デジタルポスター), (小児保健研究 81巻講演集 : 168, 2022.)
- 5) 田村敦子, 水田耕一：脳死下における肝移植を受けた青年期の患者にとっての移植という経験やその後の療養生活に対する思い, 第14回文化看護学会学術集会, 栃木, 2022年3月12日 (オンライン開催による一般口演). (第14回文化看護学会学術集会抄録 14巻 : 46, 2022)
- 6) 手塚園江, 田村敦子, 小林京子：小児がん経験者の進学と就労において直面する困難に関するスコーピングレビュー, 第20回日本小児がん看護学会学術集会, 東京, 2022年11月25日 (一般口演). (第20回日本小児がん看護学会学術集会抄録集 20巻 : 387, 2022)

(4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 田村敦子, 水田耕一：脳死下における肝移植を受けた青年期の患者にとっての移植という経験やその後の療養生活に対する思い, 第20回自治医科大学シンポジウム2022年9月9日, (シンポジウム抄録集20巻 : 56, 2022)

成人看護学

(1) 著書

- 1) 角野友香理, 小室るみ, 中田徹朗, 村上礼子:【特定行為看護師の育成と組織づくり】(PART 3) オンライン座談会 特定行為看護師の育成・活用に立ちはだかる課題と解決策について, 看護展望, 47(12);124-1130, 2022.
- 2) 八木街子, 益田美津美, 浅田義和, 上原明子, 山内豊明, 村上礼子:福祉・医療の現場から 看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究, 地域ケアリング, 24(9);39-41, 2022.
- 3) 神崎秀嗣, 村上礼子, 坂田信裕:さまざまな社会変化に耐え得る看護師育成のヒントに! 看護師のキャリア形成における新しい考え方と支援策(第2回) 看護師育成の課題と現状 看護師のキャリア開発, 看護人材育成, 19(2);69-74, 2022.
- 4) 古島幸江:認定看護師のキャリアプランから見つめ直す 手術室看護師のキャリアデザイン(第1回) 生き方を変えた「学ぶことの楽しさ」への気づき, 手術看護エキスパート, 16(3);40-44, 2022.

(2) 総説・論文(実践報告・資料含む)

- 1) 佐田尚宏, 清水 敦, 村上礼子:外科医の働き方改革と特定行為研修修了者の協働 当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み, 日本外科学会雑誌, 123(5);477-479, 2022.
- 2) 八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 鈴木義彦, 倉科智行, 白石裕子, 大塚公一郎, 村上礼子:特定行為に係る看護師の研修における共通科目での実習設計ー特定行為基礎実習Ⅰについて, 自治医科大学紀要, 44;53-59, 2022.
- 3) 村上礼子:周術期チームで活躍できる術中麻酔管理領域パッケージの特定行為研修修了看護師の育成:研修制度と研修プログラム, 研修の実践, 日本手術医学会誌, 43(1);56-61, 2022.
- 4) 佐藤幹代:書評特集によせて, 保健医療社会学論集, 33(1)1-2, 2022.
- 5) 古島幸江:器械出し看護師の実践に内在された個人的知識, 日本手術看護学会誌, 18(1);159-167, 2022.

- 6) 渡邊幸裕, 中村泰子, 古島幸江:手術室入室時における患者の体験, 日本手術医学会誌, 43(1);82-89, 2022.

(3) 学会発表

- 1) 上澤弘美, 宮本佳代子, 村上礼子:A病院における看護師特定行為研修の教育体制を構築する上での課題, 日本看護管理学会学術集会抄録集26回;249, 2022.
- 2) 村上礼子:在宅医療の担い手となる看護師の育成 特定行為研修の指定研修機関の取り組み, 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集4回;72, 2022.
- 3) 佐田尚宏, 清水 敦, 村上礼子:当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み, 日本外科学会定期学術集会抄録集122回;SP-02-4, 2022.
- 4) 井上智恵, 長谷川直人, 岡美智代他:療養支援が“すんなりいかない”ときの突破口ー看護の教育的関わりモデルの「教育的関わり技法」, 第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 大阪, 2022.
- 5) 佐藤幹代, 長谷川直人, 村上礼子, 古島幸江, 渡邊賢治, 遠藤香奈:長期的な療養を要する人への看護を思考する授業方略ー感覚機能障害をもつ当事者の語りを活用したグループワーク演習・日本看護研究学会第48回学術集会, 愛媛, 2022.
- 6) 佐藤幹代:シンポジウム1 慢性疼痛患者と向き合うこつ〜多職種からの提案〜,「慢性の痛みの語りデータベース」から慢性疼痛患者と家族の経験を学び看護を創造する, 日本慢性疼痛学会, WEB開催, 2022年2月25日.(日本慢性疼痛学会プログラム・抄録集51;41, 2022)
- 7) 佐藤幹代, 森田夏実, 射場典子, 瀬戸山陽子, 高橋奈津子, 原田雅義, 横井郁子, 吉田恵理子, 戸沢智也:当事者の語りから何を学ぶか Part12「病い・障害とともに働く人の語り」から「障害の社会モデル」を考える, 日本看護学教育学会, WEB開催, 2022年8月9日.) 第32回学術集会抄録集32;111-111, 2022)
- 8) 佐藤幹代, 長谷川直人, 村上礼子, 古島幸江, 渡邊賢治, 遠藤香奈:交流集会 長期的な療養を要する人への看護を思考する授業方略ー感覚機能障害をもつ当事者の語りを活用した

- グループワーク演習～，日本看護研究学会,愛媛.2022年8月27日.（第48回日本看護研究学会学術集会 講演集9；94, 2022）
- 9）高橋奈津子，佐藤幹代，中山直子，米田昭子：看護基礎教育における糖尿病の「語り」をいかしたセルフマネジメント支援教材の開発,第16回慢性看護学会学術集会 プログラム・抄録集，49，2022年8月.
- 10）古島幸江：清潔野補助業務を担う臨床工学技士とより善き関係性の構築を目指した課題の明確化，第36回日本手術看護学会年次大会，名古屋. 2022.
- 11）山口紀子，坂本文子，古島幸江，石田静江，堀口奈津美：手術看護実践指導看護師実態調査からみるJONAⅢのこれから，第36回日本手術看護学会年次大会，名古屋. 2022.
- 12）山縣千尋，長江弘子，岩崎孝子，片山陽子，原沢のぞみ，高 紋子，岡田麻里，渡邊賢治，那須真弓：地域で行われているAdvance Care Planningと評価に関するスコーピングレビュー 中間報告. 日本エンドオブライフケア学会誌 6巻2号；182, 2022.
- (4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）
- 1）佐藤幹代，高橋奈津子，佐藤（佐久間）りか，射場典子：「慢性の痛みの語りデータベース」からみる慢性疼痛患者の経験. 自治医科大学シンポジウム,(栃木). 2022年9月9日.（第20回 自治医科大学シンポジウム抄録集；55,2022）

老年看護学

(1) 著書

- 1) 上野まり：地域・在宅看護論（尾崎章子，佐野けさ美編），医歯薬出版（東京），297－299，301－305，2022.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 佐藤亨子，川上 勝，菅野妃穂子，山崎大輔，加藤 徹，浜端賢次，上野まり：急性期病院から自宅に退院した認知症高齢者の特徴，自治医科大学看護学ジャーナル，19：37－44，2022.
- 2) Ryusuke Ae, Teppei Sasahara, Akio Yoshimura, Koki Kosami, Shuji Hatakeyama, Kazumasa Sasaki, Yumiko Kimura, Dai Akine, Masanori Ogawa, Kenji Hamabata : Prolonged carriage of ESBL-producing enterobacterales and potential cross-transmission among residents in geriatric long-term care facilities. Scientific reports, 11(1), 21607-21607.

(3) 学会発表

- 1) 嶋澤順子，大澤真奈美，上野まり：在宅精神障害者支援における訪問看護師と自治体保健師の連携に関する看護研究の検討，第25回日本地域看護学会学術集会，富山国際会議場，2022年8月27日.
- 2) 國府田望，浜端賢次：老年看護学の教科書に見る身体拘束の記述内容に関する分析，第14回文化看護学会学術集会，自治医科大学，2022年3月12日.

総合科目

(1) 学会発表

- 1) 佐々木彩加，村上礼子，春山早苗，小谷和彦：へき地を含めた地域医療におけるICTを用いた看護実践の効果と課題—看護師2名の事例から—，日本ルーラルナースング学会第17回学術集会，Web開催，2022年9月17日。

(2) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 春山早苗，村上礼子，佐々木彩加：令和4（2022）年度 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「ICTを用いた看護実践の実態に関する検討」分担研究報告書，2022.

資 料

2022年度（令和4年度）看護学部学年暦

○前学期

4月1日（金）	ガイダンス（2・3・4年）
4月4日（月）	授業開始（2・3・4年）
4月7日（木）	オリエンテーション（1年）
4月8日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
4月11日（月）	授業開始（1年）
4月29日（金）～5月5日（木）	春季休業
5月9日（月）～6月17日（金） 6月27日（月）～7月22日（金）	前学期実習（3年）
5月14日（土）	創立記念日
6月20日（月）～6月24日（金）	対象の理解実習（1年）
7月19日（火）～7月21日（木）	定期試験（4年）
7月25日（月）～8月5日（金）	総合実習（4年）
7月25日（月）～7月29日（金）	定期試験（1・2年）
8月10日（水）～9月19日（月）	夏季休業
8月29日（月）～8月31日（水）	再試験

○後学期

9月20日（火）	授業開始
8月22日（月）～11月4日（金）	助産学実習（4年）
9月21日（水）～10月4日（火）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月7日（金）～10月9日（日）	学園祭
10月11日（火）～10月24日（月）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月14日（月）～12月16日（金） 1月9日（月）～2月17日（金）	後学期実習（3年）
12月23日（金）～1月5日（木）	冬季休業
2月3日（金）～2月9日（木）	定期試験（1年）
2月6日（月）～2月9日（木）	定期試験（2年）
2月27日（月）～2月28日（火）	再試験
3月3日（金）	卒業式
3月11日（土）～3月31日（金）	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（令和5年3月31日現在）

1. 教 員 数	47名
2. 学 生 数	414名
4年生（平成31年4月1日以前入学）	103名
3年生（令和2年4月1日入学）	103名
2年生（令和3年4月1日入学）	102名
1年生（令和4年4月1日入学）	106名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
学部長	春山早苗	地域看護学
教授	上野まみ	老年看護学
教授	大塚公一郎	看護基礎科学
教授	小川亜津子	母性看護学
教授	里原泉	基礎看護学
教授	塚本やよい	基礎看護学
教授	永井優子	地域看護学
教授	成田伸	精神看護学
教授	浜端賢次	母性看護学
教授	半澤節子	老年看護学
教授	村上礼子	精神看護学
教授	横山由美	成人看護学
准教授	内堀真弓	小児看護学
准教授	倉科智行	基礎看護学
准教授	佐藤幹代	看護基礎科学
准教授	島田裕子	成人看護学
准教授	角川志穂	地域看護学
准教授	田村敦子	母性看護学
准教授	長谷川直人	小児看護学
准教授	平尾温司	成人看護学
准教授 (兼)	川上勝	看護基礎科学
准教授	青木さざり	老年看護学
講師	石井容子	地域看護学
講師	市川定子	基礎看護学
講師	小西克恵	地域看護学
講師	佐々木彩加	小児看護学
講師	鹿野浩子	総合科目担当
講師	鈴木美津枝	看護基礎科学
講師	関山友子	看護基礎科学
講師	古島幸江	看護基礎科学
講師	湯山美杉	看護基礎科学
講師	渡邊賢治	看護基礎科学
助教	飯島早絵	小児看護学
助教	井上育子	基礎看護学
助教	上野知奈	母性看護学
助教	遠藤香奈	成人看護学
助教	甲賀優貴	基礎看護学
助教	酒井千裕	老年看護学
助教	高崎浩子	精神看護学
助教	舘沼麗奈	成人看護学
助教	二宮美由紀	母性看護学
助教	沼野莉奈	老年看護学
助教	舟橋千尋	地域看護学
助教	前田彩乃	母性看護学
助教	路川達阿起	精神看護学
助教	谷田部典子	母性看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	秋和孝志
大学事務副部長 (看護学部担当)	高山淳一

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	高山淳一
参事(兼)課長補佐	高飯村久恵
係 長	福澤弘美
主 事	スタナーズ里杏
主 事	松井千紘
嘱 託	小川里恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大根田雅則
参事(兼)課長補佐	野澤幸男
主 幹	湯浅芳恵
係 長	和久信乃
主任主事	松田尚子
主任主事	渡辺慎吾
主 事	鈴木祐太郎
嘱 託	鈴黒川大輔
嘱 託	高槻祥子

※令和4年4月1日～令和5年3月31日在職者（各職階ごとの50音順）

2022年度（令和4年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

4月7日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月11日（月）	履修計画の提出締切
5月14日（土）	創立記念日

○後期

10月3日（月）	授業開始
11月7日（月）	研究構想発表会（前期課程）
12月1日（木）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（後期課程）
12月19日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（前期課程）
1月5日（木）	論文審査・口頭試問（後期課程）
1月5日（木）～1月27日（金）	論文審査期間（後期課程）
1月16日（月）～1月18日（水）	論文審査・口頭試問（前期課程）
1月16日（月）～1月27日（金）	論文審査期間（前期課程）
2月20日（月）	学位論文発表会（最終試験）
3月6日（月）	学位論文（保存用）最終締切
3月20日（月）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（令和5年3月31日現在）

1. 教 員 数	23名
2. 学 生 数	26名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	9（5）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	6（3）名
3年生（長期履修制度利用者）※博士後期	8（8）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	1（1）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
研究科長	春 山 早 苗	地 域 看 護 管 理 学
教 授	大 塚 公一郎	共 通 科 目
教 授	上 野 ま り	老 年 看 護 管 理 学
教 授	川 野 亜津子	母 性 看 護 学
教 授	小 原 泉	が ん 看 護 学
教 授	里 光 やよい	診療看護技術管理学
教 授	塚 本 友 栄	地 域 看 護 管 理 学
教 授	永 井 優 子	精 神 看 護 学
教 授	成 田 伸	母 性 看 護 学
教 授	浜 端 賢 次	老 年 看 護 管 理 学
教 授	半 澤 節 子	精 神 看 護 学
教 授	村 上 礼 子	診療看護技術管理学
教 授	横 山 由 美	小 児 看 護 学
准教授	内 堀 真 弓	が ん 看 護 学
准教授	川 上 勝	老 年 看 護 管 理 学
准教授	倉 科 智 行	共 通 科 目
准教授	佐 藤 幹 代	クリティカルケア看護学
准教授	島 田 裕 子	地 域 看 護 管 理 学
准教授	角 川 志 穂	母 性 看 護 学
准教授	田 村 敦 子	小 児 看 護 学
准教授	長谷川 直 人	診療看護技術管理学
講 師	鹿 野 浩 子	共 通 科 目
講 師	関 山 友 子	共 通 科 目

※令和4年4月1日～令和5年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	秋 和 孝 志
大学事務副部長 (看護学部担当)	高 山 淳 一

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	高 山 淳 一
参事(兼)課長補佐	飯 村 久 恵
係 長	福 澤 弘 美
主 事	スタナーズ里杏
主 事	松 井 千 紘
嘱 託	小 川 里 恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大根田 雅 則
参事(兼)課長補佐	野 澤 幸 男
主 幹	湯 浅 芳 恵
係 長	和 久 信 乃
主任主事	松 田 尚 子
主任主事	渡 辺 慎 吾
主 事	鈴 木 祐 太郎
嘱 託	黒 川 大 輔
嘱 託	高 槻 祥 子

編 集 後 記

2023年度も皆様のお力添えをいただき、無事に本誌の発刊を迎えることができました。
発刊にあたり、ご多忙の中、原稿の執筆にご協力いただき厚く感謝申し上げます。

本誌より1年間の業績を振り返り、次年度への目標の一助になれば幸いです。

さて、新型コロナウイルス感染症が第5類となり、私たちの生活は大きく日常に戻ってまいりました。教育・研究活動、社会貢献等、その役割は、さらに高まっていくものと思われます。

皆様のご活躍に寄与できるよう、本誌の充実を図り、役割を果たしていきたいと考えております。

今後とも、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（令和6年3月 編集委員会 委員 川野亜津子）

自治医科大学看護学部編集委員会

委員長	内堀 真弓
副委員長	川野亜津子
委員	角川 志穂
委員	古島 幸江
委員	青木さぎ里
委員	鹿野 浩子
編集担当	看護総務課 スタナーズ里杏

自治医科大学看護学部年報（第21号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第17号）

令和6年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長） 春山早苗
編集責任者	編集委員会委員長 内堀真弓
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285（58）7409
印刷所	（株）松井ビ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028（662）2511（代）